

c. 分析の領域及び条件の設定

分析の範囲と条件は、以下のように設定しました。

朝霞市の北西側および南西側の境界は、柳瀬川および白子川による閉境界としました。台地部においては、ボーリングデータから推定した地下水位の高まりを閉境界としています。これにより、上流側の地下水が解析領域に流入しない設定となります。黒目川の上流の境界は、朝霞市から十分に離れた位置に設定し、既存のボーリングデータから推定した固定水位境界を設けました。荒川沿いの低地については、荒川の上流側および下流側に境界を設定し、推定地下水位に基づいた固定水位境界を設けています。なお、解析領域の底面は-100m として設定しました。



図 参-6 分析の範囲と条件

d. モデルの調整

コンピュータ上のモデルを作る際、浅部砂礫層と下部堆積層類で、それぞれ水の通りやすさの数値を細かく調整しました。これにより、台地の縁から湧き出る水と、地下深くに浸み込んでいく水のバランスを整え、実際の地下水位や川の流量に近づけています。また、市民団体「朝霞水の会」が1997年に行った調査データも活用し、地下水の高さの変化が正しく再現できているかどうかの確認も行いました。

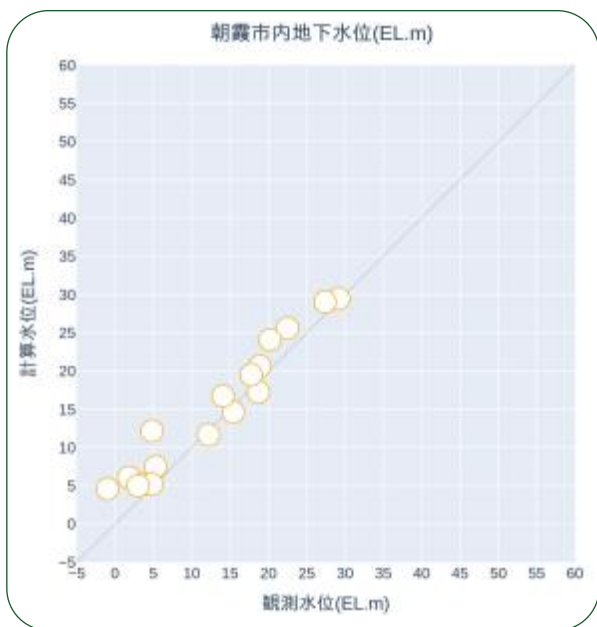


図 参-8 観測水位と計算水位の比較

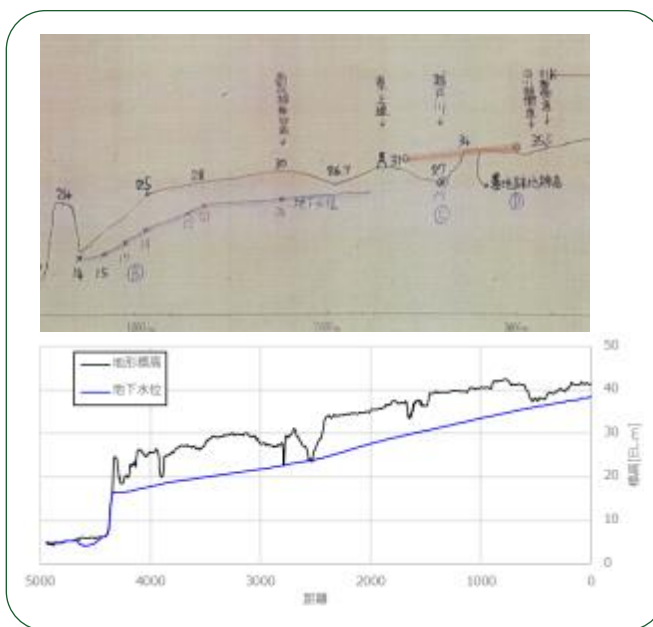


図 参-8 「朝霞水の会」による調査結果との比較

1 みどりの多面的効用に着目した分析

e. 解析の結果

ア. 雨水のしみ込み方と水害のリスク

- ・台地上のみどりが分布するエリアでは、雨水が地面にしみ込む量が多く、湧水の維持や水害の防止に貢献しています。
- ・まちなかは、建物やアスファルトが多く、雨水がしみ込まずに表面を流れるため、水害のリスクを高めています。
- ・川沿いの低い土地では、地下水位が地表近くまであり浅いため、雨水が地面にしみ込みにくいことが分かりました。

イ. 湧水が出る仕組みの再現

- ・地下の水の流れを再現したところ、地面からしみ込んだ雨水は、浅い層を通過して崖から湧き出すものと、さらに地下深くへと流れていくものに分かれることが分かりました。
- ・シミュレーションにより、実際の湧水地点の状態をコンピュータ上で再現できました。

ウ. 湧水にたどり着く水がしみ込んだ範囲

- ・地下水の流れを追跡した結果、地下水はおおむね南から北、または南西から北東へ流れますが、湧水の近くでは出口（崖）に向かって流れを変えています。
- ・湧水に届く多くの水は湧水に近い台地上でしみ込んだものですが、数キロメートル離れた遠くの台地から、長い時間をかけて届く水も含まれていることが分かりました。

〔地表面における雨水の浸透量、表面排水量、地下水の流れ（流動経路）、湧水への涵養起源に係る図面は、本編の 18-19 頁に掲載しています。〕

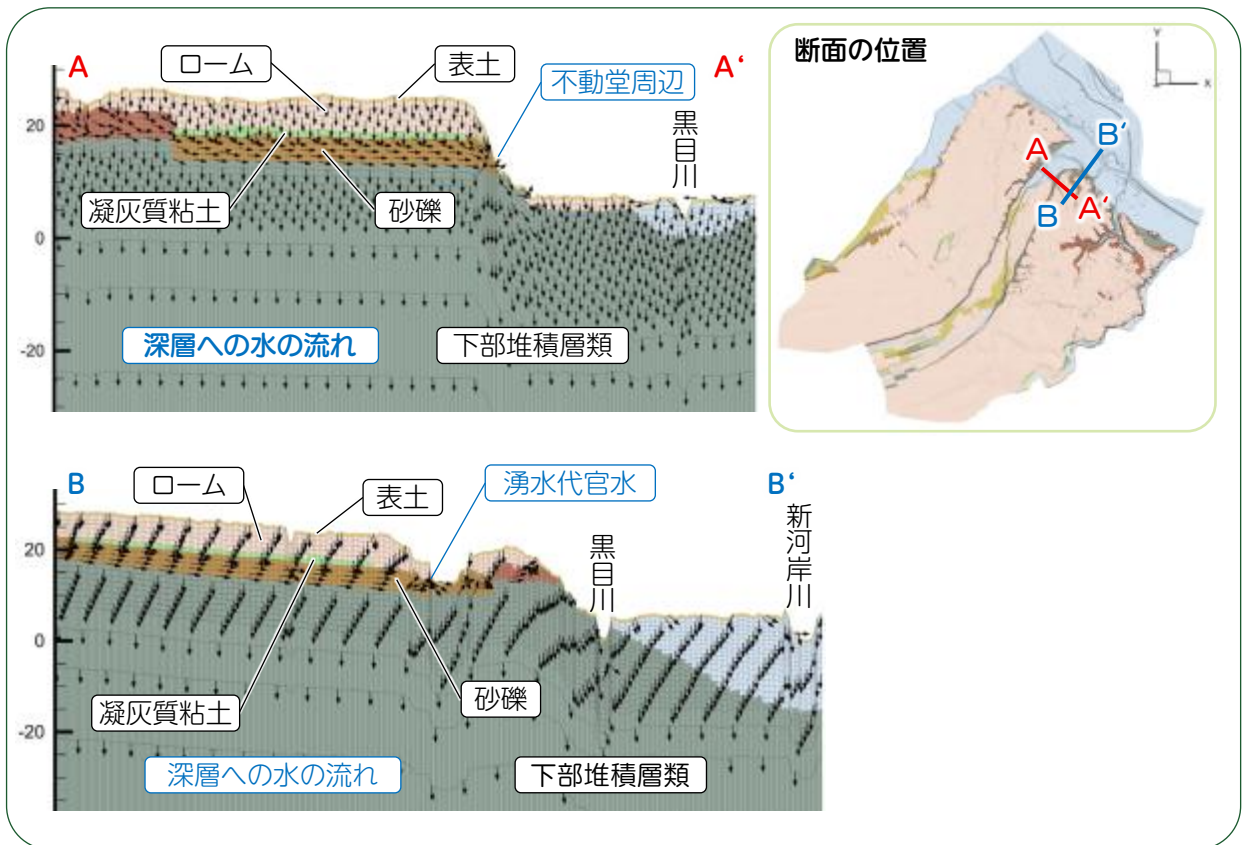


図 参-9 断面図で見る地下水の流れ

1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

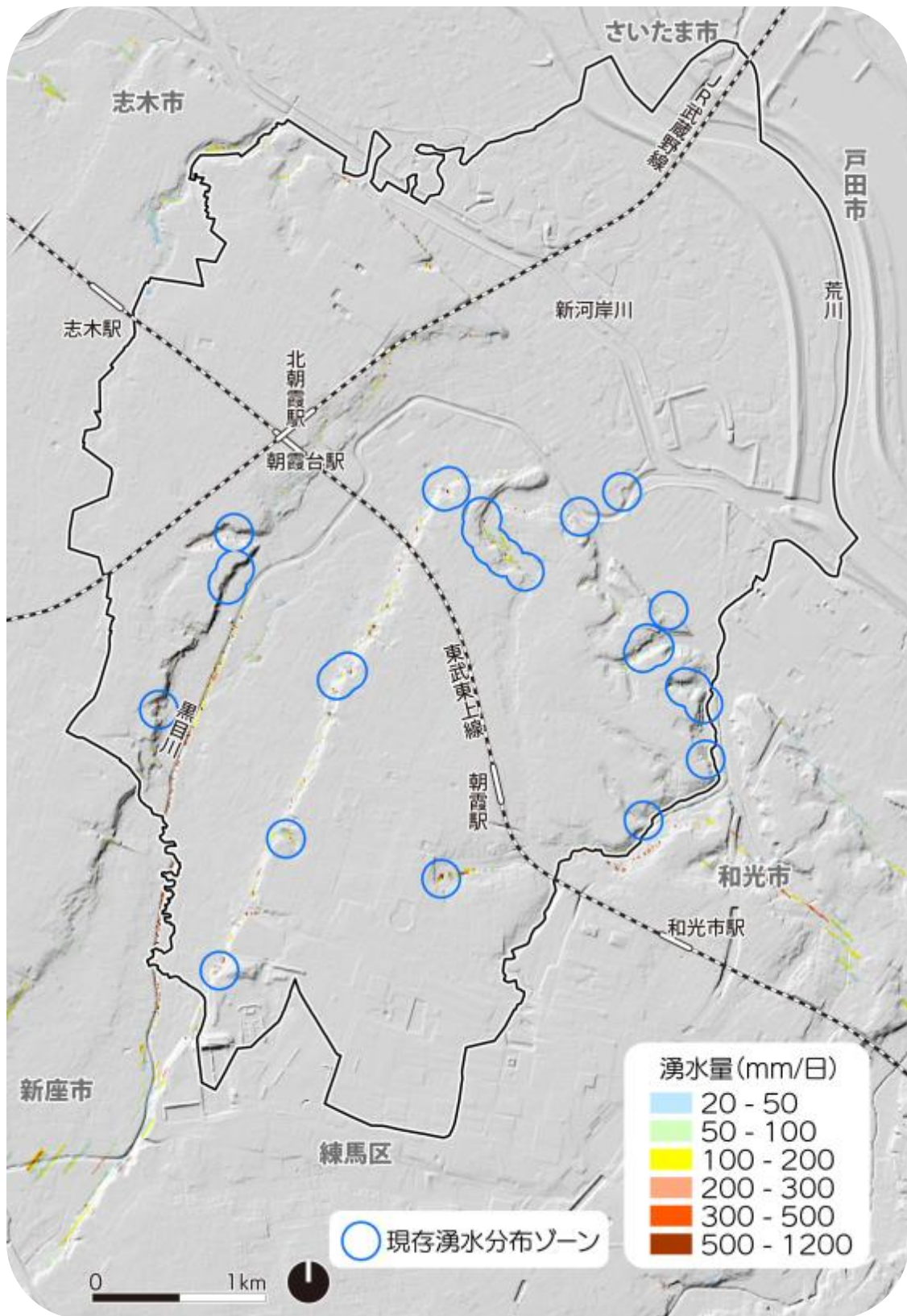


図 参-10 湧出量
〔 地表面を上向きに通過する水の流動量 〕

1章 計画の
基本的事項

2章 みどりの
現状と課題

3章 みどりの
将来像

4章 みどりの
指針

5章 みどりの
取組

6章 地域別の
取組

7章 計画の
実現に向けて

参考資料集

1 みどりの多面的効用に着目した分析

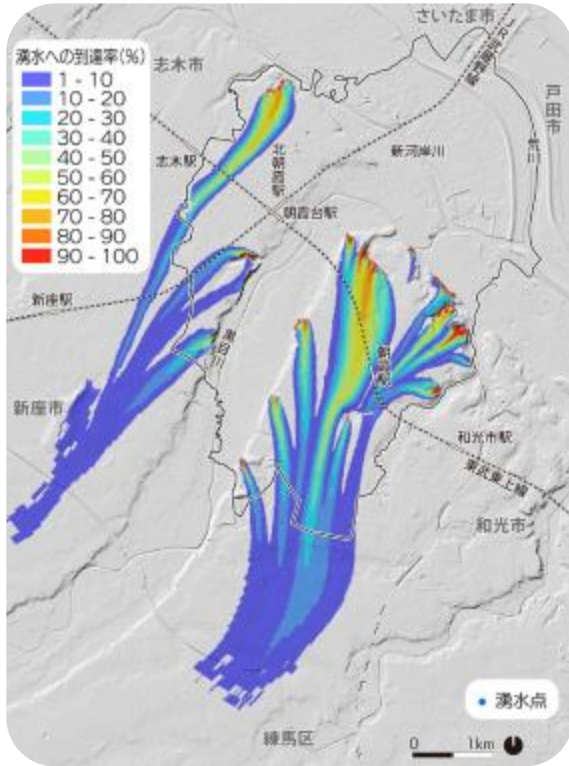


図 参-12 湧水の涵養起源 (広域)

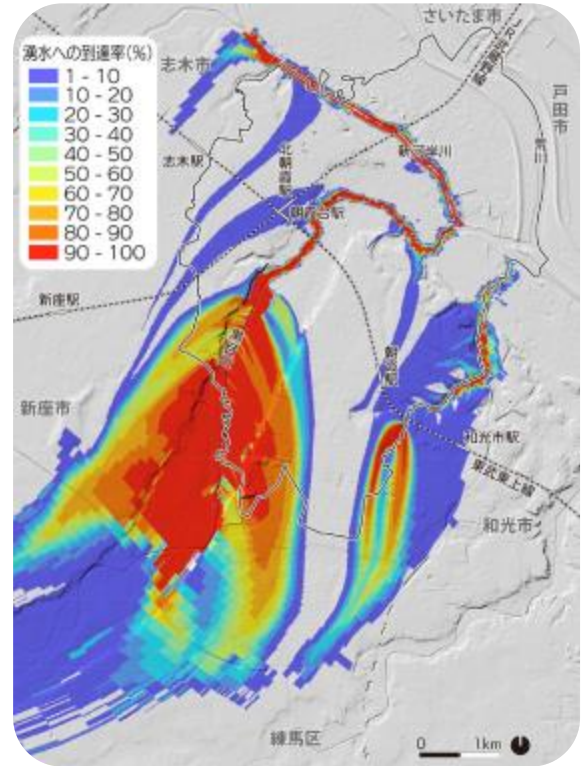


図 参-11 河川への湧水の涵養起源 (広域)

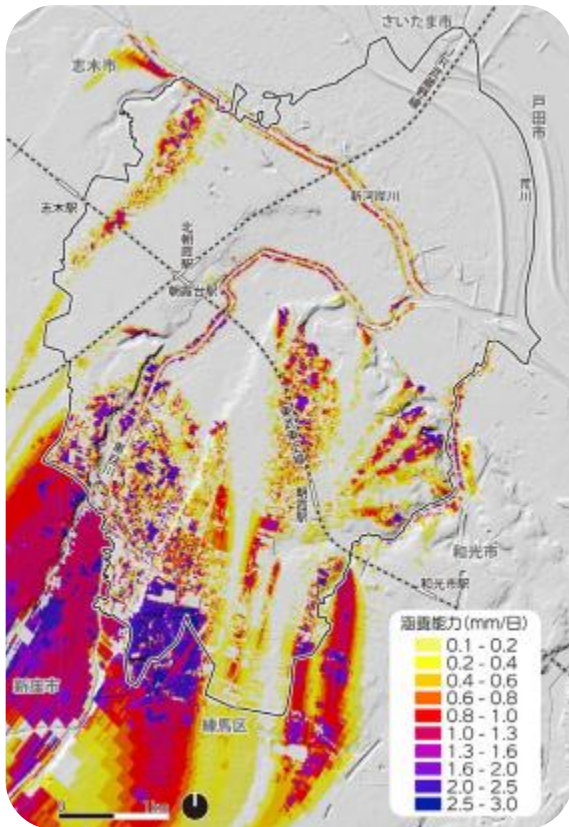


図 参-13 湧水と河川への涵養量

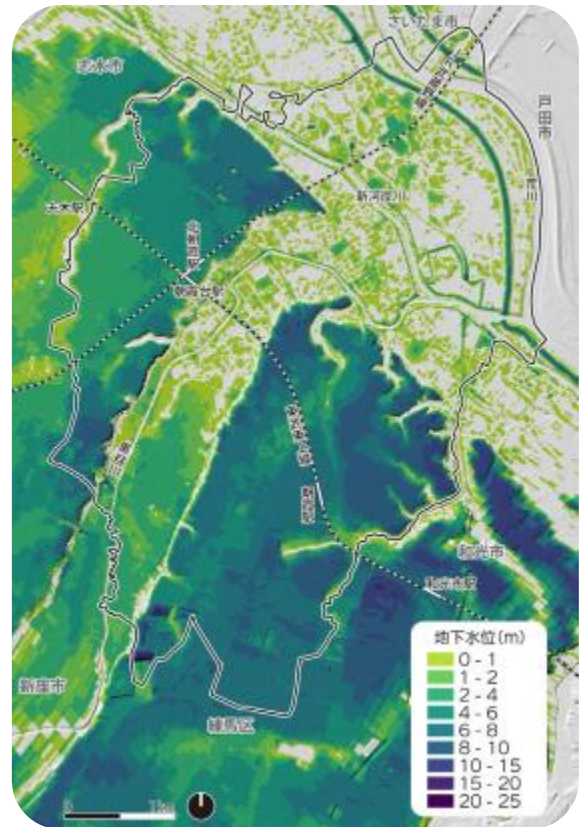


図 参-14 地下水位

(地表から地下水面までの距離)

(湧水の涵養量は、各地点で浸み込んだ雨水の湧水への到達量を計算したものです。各地点の「浸透量」×「湧水への到達率」によって求めています。)

1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

② 都市の気温上昇を緩和するみどり

a. 解析の目的と方法

都市の温度が上がるヒートアイランド現象の緩和に対して、みどりがどれくらい貢献しているかを調べるため、人工衛星のデータとみどりの分布図(GI マップ)を使って分析しました。

まず、人工衛星(ランドサット 9 号)が観測した熱赤外線の数値をもとに、市内の夏の地表面温度を色で示した図(2章 20 頁に掲載)を作成しました。この図は、2023 年と 2024 年の夏のうち、天気が良く、雲の影響をほとんど受けていない 3 つの時期の画像を選んで作成しています。3 つの時期の温度を平均したのは、その日だけ特別に温度が高かったり、特定の場所だけで極端な数値が出たりする外れ値の影響を抑えるためです。これにより、一時的・局所的な数値の偏りをならして、市全体の正確な傾向を把握できるように平準化しました。

表 参-1 使用した画像

データソース名: U.S. Geological Survey (USGS) 衛星・センサ名: Landsat 9, TIRS-2(熱赤外センサ) データプロダクト名: Collection 2 Level 2 入手先: USGS EarthExplorer	取得年月日 2023 年 7 月 27 日 am10:15 頃 2023 年 8 月 4 日 am10:15 頃 2024 年 7 月 5 日 am10:15 頃
--	--

b. 解析から予測した温度の広がり

地表面温度図によると、市内の最高温度は 36.5 度、最低温度は 25.7 度でした。

c. 朝霞市独自の計算式で温度の変化を予測する

市内のみどりの広がりや、人工衛星の画像から分かった地表面温度の関係を詳しく分析しました。その結果、朝霞市の特徴をしっかりと反映させた、市独自の計算式を導き出しました。

この式を使うと、例えば今あるみどりがなくなってしまう場合や、新しくみどりを増やした場合に、地表面温度がどのように変化するかを予測することができます。

$$\begin{aligned}
 &\text{推測地表面温度 (}^\circ\text{C)} = 31.6 \\
 &+ (-4.28 \times \text{水系 GI タイプ面積 (ha)}) \\
 &+ (-1.93 \times \text{樹林地系 GI タイプ面積 (ha)}) \\
 &+ (-0.40 \times \text{草地系 GI タイプ面積 (ha)}) \\
 &+ (1.87 \times \text{都市系 GI タイプ面積 (ha)}) \\
 &+ (0.98 \times \text{建物面積 (ha)}) \\
 &\text{(補正 R}^2\text{=0.773)}
 \end{aligned}$$

図 参-16 朝霞市のみどりの分布に基づいた地表面温度の推測式

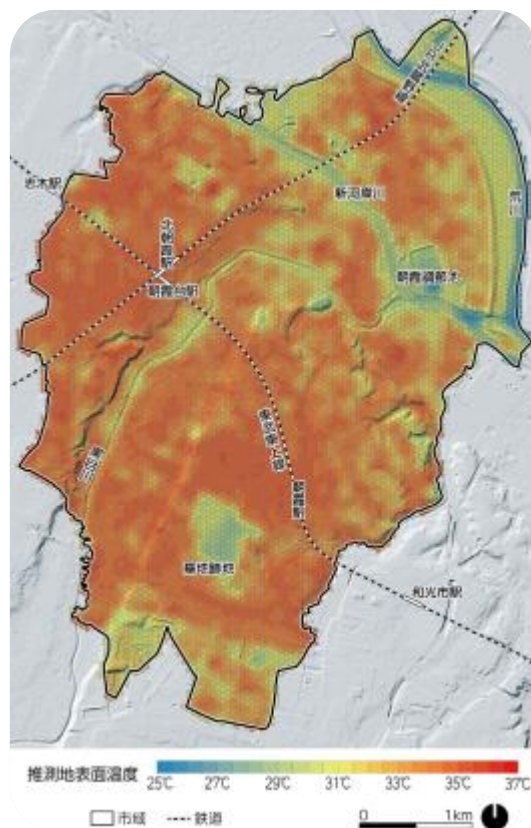


図 参-15 みどりの分布状況から推測した地表面温度図

1 みどりの多面的効用に着目した分析

③ 地球温暖化の緩和に貢献するみどり

a. 市内のみどりが蓄える炭素の量の調べ方

植物が光合成によって大気中の二酸化炭素から取り込んだ炭素の合計を総生産量と言います。植物は取り込んだ炭素の一部を、自分自身が呼吸するために使いながら成長しています。そのため、総生産量から呼吸で使った分を差し引いた残りが、植物の体内に蓄えられます。これを純生産量と言います。そして、蓄えられた炭素のうち、長期間大気に戻らずに蓄積している量を炭素固定量と言います。

炭素固定量を推定する際は、これまでの研究で積み重ねられた森林や草地などのデータを使います。まず、市内にあるみどりの種類とその面積を調べ、エリアごとに純生産量を計算します。さらにそれを炭素の重さに置き換えることで、市全体でどれくらいの炭素が固定されているかを算出します。

表 参-2 GIタイプ区分の純生産量・炭素固定量

GIタイプ区分	純生産量(t/ha・年)	炭素固定量(t/ha・年)
常緑広葉樹林	18	8.0
落葉広葉樹林	12	5.3
常落混交広葉樹林※2	15	6.7
常緑針葉樹林	18	8.0
草地(竹林含む)	12	5.3
農耕地(果樹園等含む)	10	4.4
その他のみどりの空間 (公園等を含む)	6	2.7

この表は、大気浄化植樹マニュアル 2014 年度改訂版(独立行政法人環境再生保全機構)を参考にしています。

GIタイプ区分は、GIタイプにおいて、樹林系GI、草原系GIなどを統合したものです。

植物体の乾物重の大部分を占める多糖類と、この中の炭素量の重量比から炭素固定量を設定しています。多糖類と含有炭素の重量比は、 $[6C]/[C_6H_{10}O_5]=6*[12g/mol] / [162g/mol] \div 44.4\%$ です。

常落混交広葉樹林の純生産量、炭素固定量は、常緑広葉樹林と落葉広葉樹林の値の平均としました。

グリーンインフラマップにおける高中木植栽地・灌木植栽地は、その他のみどりの空間として計算しました。

b. 市全体のみどりが炭素を蓄えるチカラ

市全体のみどりが二酸化炭素を取り込み、炭素を蓄えるチカラを計算しました。その結果、1年間に市全体で約3,018トンの炭素を蓄える能力があることが分かりました。1平方メートル当たりでは、最大で約0.73キログラムの炭素を蓄えています。

特に炭素を蓄えるチカラが高いのは、荒川の河川敷や基地跡地、朝霞駐屯地など、大きなみどりがある場所です。また、黒目川沿いや内間木、根岸台、岡、宮戸付近に点在する農地や屋敷林も、大切な役割を果たしています。今回はみどりの面積をもとにした簡易的な計算でしたが、今後は木の高さや密度なども取り入れた、より精度の高い算定が求められます。

④ 生き物の生息空間となるみどり

a. 生き物の視点で環境の豊かさを測る

みどりには、樹林や草原、水辺などさまざまな環境があります。今回の生物多様性評価では、まず、植物の種類や地面の湿り気などを考えて、63種類の環境に湧き水や林縁を加えた、合計65種類のGIタイプを設定しました。次に、過去の調査で確認された生き物たちが、それぞれの暮らしの中でどのGIタイプを利用しているかを整理しました。これを想定生息環境の設定と呼びます。これとあわせて、確認された生き物たちを、絶滅の心配があるレッドリスト種や注目すべき種、あるいは似たような暮らし方をする仲間のグループなど、34の指標に分類しました。最後に、これら2つの作業を組み合わせ、GIタイプごとに指標の多様性を計算しました。その結果を、市内のエリアごとのみどりの面積に当てはめることで、地図上の場所ごとの多様度を求めています。

指標の多様度が高いということは、いろいろな暮らし方をする生き物たちが一緒に過ごせる場所であることを意味しており、生き物にとって特に大切な場所だといえます。

表 参-3 生き物の指標の構成

ID	指標名	指標設定の理由
01	動物-貴-鳥類	国・県レッドリスト掲載の希少種。早急な保護対策の必要性。
02	動物-貴-昆虫類	同上
03	動物-貴-その他	同上
04	動物-哺-モグラ類	土壌の通気・肥沃化に寄与。地下生態系と土壌環境の指標。
05	動物-哺-外来種	在来種の生息空間を圧迫する要因としての評価。
06	動物-哺-モグラ類以外	外来種圧下でも生息する重要環境の指標。
07	動物-鳥-渡鳥(夏)	夏鳥の繁殖地としての環境価値の評価。
08	動物-鳥-渡鳥(冬)	冬鳥の越冬地としての環境価値の評価。
09	動物-鳥-留鳥	通年生息し、鳥類群集の骨格・典型性を示す指標。
10	動物-鳥-キツツキ	巣穴供給や樹木健全化を担う、森林生態系の特殊な構成種。
11	動物-鳥-昆虫食	二次消費者(シジウカラ等)の利用環境の指標。
12	動物-鳥-種子食	一次消費者(カワラヒワ等)の利用環境の指標。
13	動物-鳥-水鳥	水辺環境に特異的に依存する種の抽出。
14	動物-爬-在来種	確認例の少なさから、生息環境の重要性を評価。
15	動物-両-在来種(卵・幼)	水域(幼生)と陸域(成体)で異なる生存環境を分離評価。
16	動物-両-在来種(成体)	同上
17	動物-昆-チョウ(樹林性)	環境(樹林・林縁・草地)ごとの典型的な分布状況の評価。
18	動物-昆-チョウ(林縁性)	同上
19	動物-昆-チョウ(草原性)	同上
20	動物-昆-その他(樹林性)	各環境(樹林・林縁・草地)に典型的な種の分布状況の評価。
21	動物-昆-その他(林縁性)	同上
22	動物-昆-その他(草原性)	同上
23	動物-昆-トンボ(流水性)	止水・流水で異なる環境要求性を分離評価。
24	動物-昆-トンボ(止水性)	同上
25	動物-水-魚(流水性)	河川等の流水環境を利用する魚類の指標。
26	動物-水-魚(止水性)	水田・池等を利用する、伝統的な流域生態系の象徴。
27	動物-水-魚(回遊性)	生活環で川を利用する回遊魚。流域の連続性の象徴。
28	動物-水-魚(草食性)	藻類を食すアユ等。近代化以前の河川環境の象徴。
29	動物-水-魚(肉食性)	肉食・底生食。餌となる貝・エビ類が豊富な河床環境の指標。
30	動物-水-エビカニ類	十脚類が生息する河川環境の健全性の象徴。
31	動物-水-貝類	貝類が生息する河床環境の健全性の象徴。
32	動物-水-昆虫	水生昆虫の分布環境を示す指標。
33	植物-レッドリスト	国・県レッドリスト掲載の希少種。早急な保護の必要性。
34	植物-注目種	採取や管理放棄により減少が懸念されるラン科等の指標。

c. 市域における生物指標の多様度評価

GI タイプごとの分析をもとに、市内のどこに豊かな自然があるかを示した生物指標の多様度評価図(2章22頁)を作成しました。

エリアごとの評価を見ると、木々が集まる場所や水辺で点数が高くなりました。特に、朝霞調節池や基地跡地、そして根岸台、岡、宮戸などの斜面林は、多くの生き物が豊かに暮らせる場所として、非常に高い評価となりました。

なお、この評価は今そこにいる生き物をすべて数えたものではなく、みどりの分布状況からその場所に生き物が住める可能性を予測して数値にしたものです。

d. 市民との協力とこれからの課題

この分析で行った想定生息環境の設定や生物種の指標分けは、朝霞市生物多様性市民懇談会の参加団体に確認していただき整理しました。作成した評価図の内容についても、日々市内で活動されている方々の実感と重なる、妥当な結果であるとの評価をいただいています。

また、今回の想定生息環境の設定という手法は、生き物がいつ、どこにいたかという正確な位置データが不足している状況において、市全体の環境を評価するために検討したものです。特別な生き物調査を新たに行わずに分析できるため、コストや労力を抑えつつ、現状を把握できるという利点があります。

一方で、同じ種類のGIタイプであっても、場所が変われば実際の環境は少しずつ異なります。そのため、すべてが同じような生き物のすみかになるとは限りません。今後は、より現実に即した分析を行うために、位置情報を含めた生き物調査を行い、データを積み重ねていくことが課題であると考えられます。

1 みどりの多面的効用に着目した分析

⑤ 健康づくりの場となるみどり

a. 健康を支える歩行環境の役割

まちづくりにおいて、市民の健康を支える要素を健康資源と呼びます。その中でも歩くことは、健康づくりの土台となる、最も身近で大切な活動です。

歩く習慣を続けることが、多くの病気を防ぎ、健康を守ることに役立つことは、さまざまな研究で証明されています。例えば、日本で行われた大規模な調査(中之条研究)では、1日に8,000歩、そのうち20分間の早歩きをすることが、健康を維持するために非常に効果的であると示されています。

中之条研究

健康を維持するために、1日にどのくらい歩くのが良いのでしょうか。群馬県中之条町では、5,000人の住民を対象に20年以上にわたる調査が行われました。これは中之条研究と呼ばれ、日常の歩数や運動の強さと、病気の予防との関係を解き明かした調査として知られています。

この研究では、歩数や運動の強さに応じて、さまざまな病気を防ぐ目安が示されています。例えば、1日4,000歩とそのうち5分の早歩きをすることはうつ病の予防に、1日5,000歩とそのうち7.5分の早歩きをすることは認知症や心疾患の予防に役立つといわれています。そして、1日8,000歩とそのうち20分の早歩きを続けることは、高血圧や糖尿病といった生活習慣病の予防に非常に効果的であることが分かってきました。

(東京都健康長寿医療センター研究所の青柳幸利博士らが、2000年より群馬県中之条町で継続している「中之条研究」の成果を参考にしています。)

こうした歩く習慣を支えるのが、私たちの身近にある公園や川沿いのみどりです。木々や草花に囲まれた環境で歩くことは、単なる運動だけでなく、ストレスを解消し心のリフレッシュにもつながります。朝霞に広がる豊かなみどりは、私たちが自然に、そして楽しく健康づくりを続けていくための大切な役割を担っています。

公園などのみどりは、こうした歩くための環境を提供する代表的な場所です。この分析では、本市の健康資源として、特に歩きやすい環境がどこに、どれくらいあるのかを詳しく調べてみました。

b. 歩ける場所の広がりを調べる

市内には、さまざまな歩く場所があります。例えば、公園の中にある遊歩道のほか、黒目川などの河川沿いの道、根岸水路遊歩道、お寺や神社の参道などが挙げられます。

一方で、道路に沿った歩道については、駅の周りや幹線道路を中心に整備が進んでいますが、住宅地の中にある道路では、歩道が途中で途切れている区間も見られます。

こうした歩く場所が市内のどこに、どれくらいあるのかを図示しました。

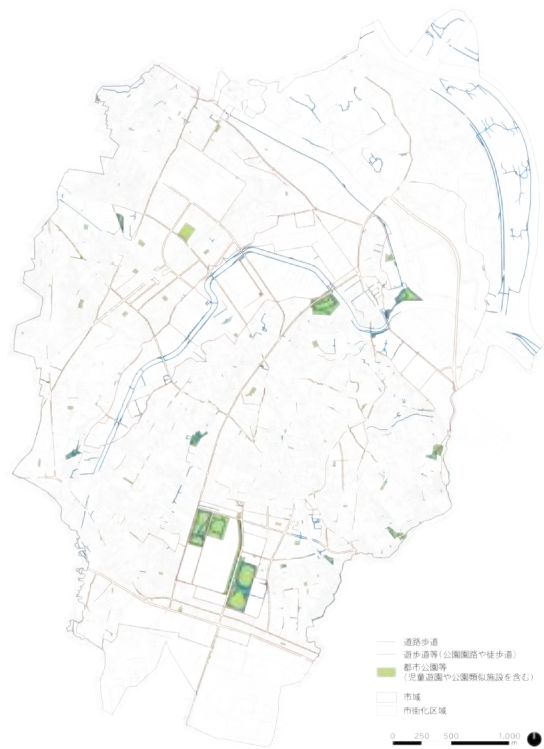


図 参-17 歩行空間の分布

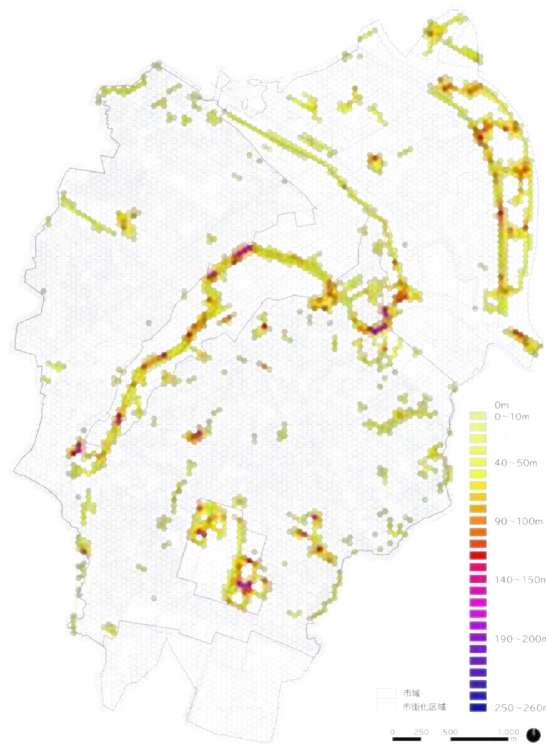


図 参-18 エリアごとの遊歩道の長さ

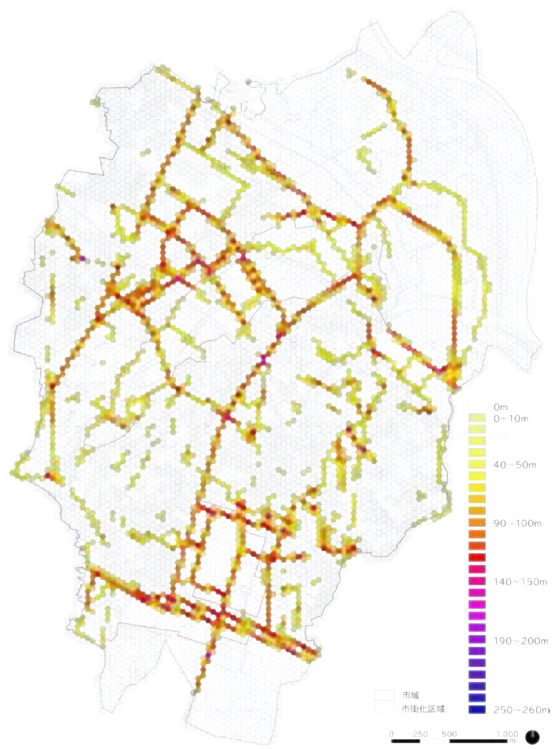


図 参-19 エリアごとの道路歩道の長さ

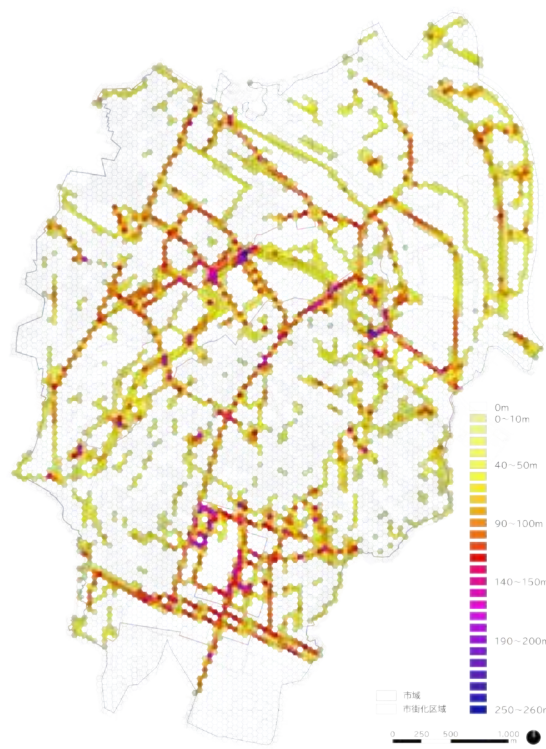


図 参-20 エリアごとの遊歩道及び道路歩道の長さ

1 みどりの多面的効用に着目した分析

⑥ 身近な遊び場となるみどり

2章では、身近な遊び場がどれくらい足りているかという視点から、本市の現状と課題をまとめています。ここでは補足資料として、公園などにある遊具がどこに配置されているかを整理しました。

この分析は、令和5(2023)年度に行われた公園や児童遊園地の遊具点検結果をもとに、幼児向け、小学生向け、そしてすべての遊具の分布を地図に示したものです。地図を作成するにあたっては、点検で使用不可と判定されたものは除き、現在安全に使うことができる遊具のみを対象としています。

幼児向けや小学生向けの遊具は、一部の例外を除き、多くの公園や児童遊園地にバランスよく配置されています。一方で、大人がストレッチなどに使う健康遊具は、比較的大きな公園や黒目川沿いのウォーキングコースにある広場などに置かれています。それぞれの利用目的に合わせた場所に配置されているといえます。

また、遊具の設置が少ない地域も見られます。

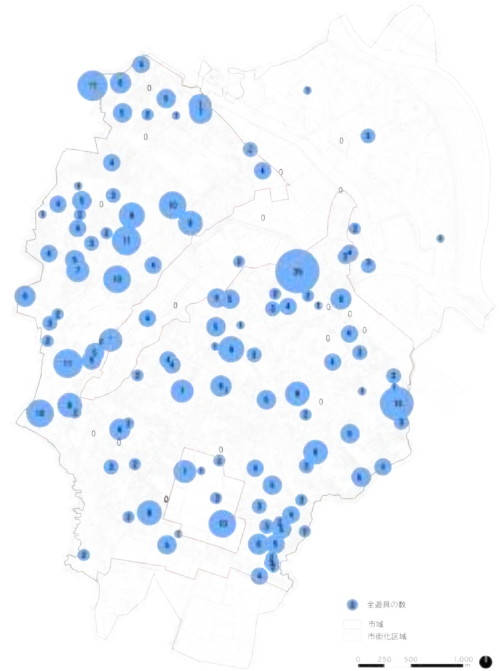


図 参-21 全遊具設置状況

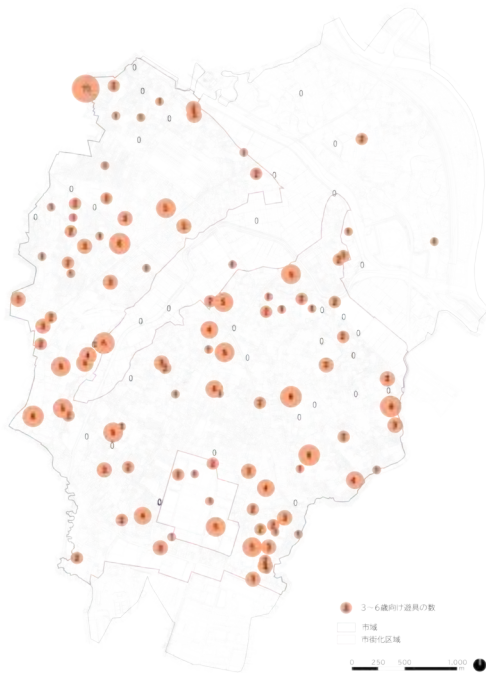


図 参-22 3～6歳向け遊具設置状況

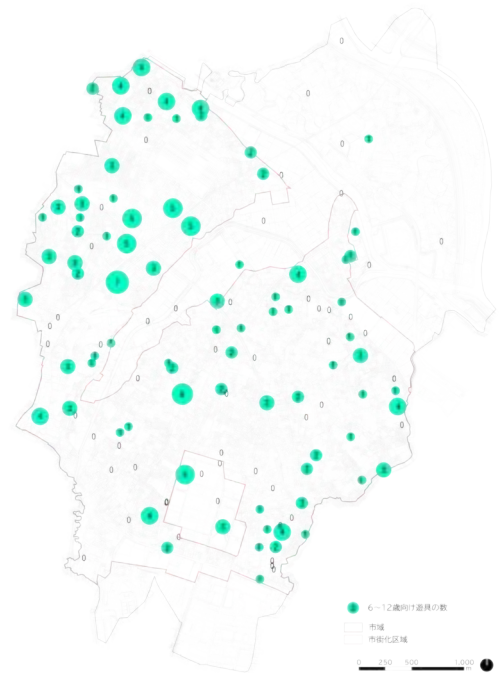


図 参-23 6～12歳向け遊具設置状況

1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

⑦ にぎわいや交流の場となるみどり

人が集まり、にぎわいが生まれるオープンスペースとして、公園などのほか、イベントの時に歩行者天国として利用される道路などがあります。市役所の駐車場やシンボルロードは、彩夏祭やアサカストリートテラス等の会場として活用され、黒目川は桜の時期の花まつりや川まつりの開催場所になり、多くの人が交流する大切な場所になっています。また、お寺や神社の境内では地域に根ざしたお祭りや行事が行われており、昔から続くにぎわいの場として親しまれています。

表 参-5 にぎわいを生み出すオープンスペースの例

場所・空間	内容や具体例
公園や広場	都市公園、児童遊園地など (分析では、面積が 1,000 m ² 以上の大きなものを対象にしています。)
道路や駅前広場	市役所通り、駅西口富士見通線、朝霞・北朝霞駅前広場など
神社・寺	地域のお祭りや行事が行われる境内など
河川の周辺	黒目川、越戸川周辺

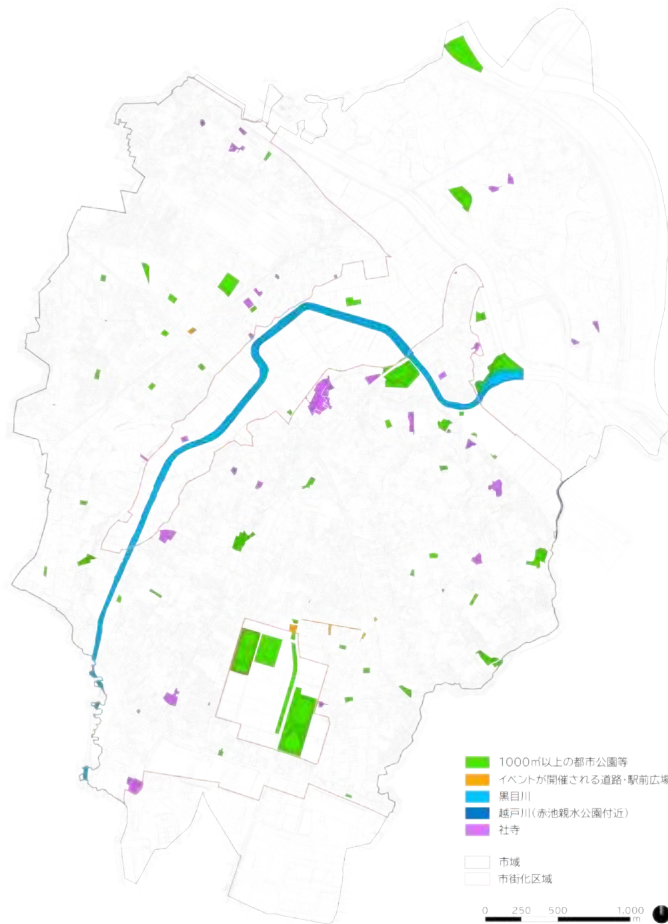


図 参-24 にぎわいを生むオープンスペース

1 みどりの多面的効用に着目した分析

⑧ 防災拠点となるみどり

みどりが持つ防災のチカラは、そこにあるだけで効果を発揮する存在効果と、避難時などに役立つ利用効果の2つに大きく分けられます。

表 参-6 防災に係るみどりの効果

区分	期待される効果
存在効果 (そこにあるだけで役立つチカラ)	延焼防止、爆発などの衝撃緩和、水害やがけ崩れの被害抑制、危険な場所への立入制限 など
利用効果 (いざという時に使うチカラ)	災害時の避難場所、被災時の活動拠点 など

a. 火災や水害を防ぐ役割

延焼を抑える役割を持つみどりとして、都市公園や道路のほか、農地や樹林地などが挙げられます。

水害の緩和・防止に役立つみどりとしては、浸水想定区域内にある調節池や農地などが挙げられます。これらは、大雨の際に水を一時的にためる遊水機能によって、防災性の向上に寄与しています。また、台地面の樹林地や農地、草地などは、雨水を地下へしみ込ませる能力を持っており、内水氾濫の緩和にもつながっています。

b. がけ崩れを防ぐ役割

本市では、台地の縁にあたる斜面地を中心に、土砂災害警戒区域などが33か所指定されています。こうした場所の一部では、特別緑地保全地区などに指定することで、がけ崩れの防止と自然環境の保護を同時に行っています。

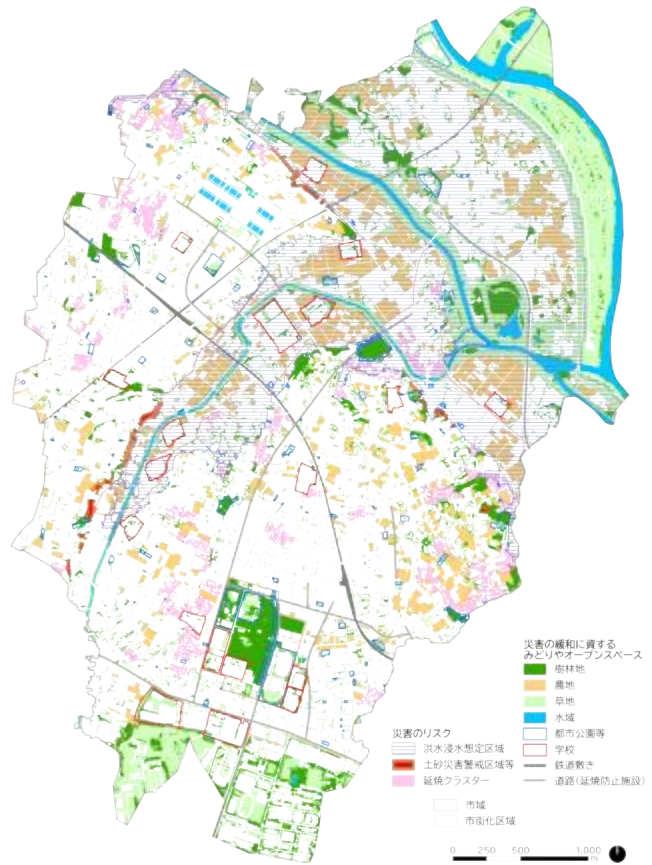


図 参-25 災害の緩和に役立つみどり

c. 避難場所としてのみどり

みどりが持つ利用効果には、災害時の避難場所や、被災時の復旧・復興活動の拠点としての役割があります。本市では、避難所や防災活動拠点として、小学校や都市公園などがその機能を担っています。

表 参-7 朝霞市の防災活動拠点と避難場所

区分	役割と主な施設
地域防災拠点	避難場所に指定されているほか、災害直後に必要な食料や資機材が備蓄されており、地域の自主防災活動の拠点となる施設です。市内の小学校 10 校が指定されています。
防災活動拠点	災害対応の指揮をとる場所や、物資を運び込む場所などです。 ● 市役所・出張所(対策本部など) ● 各小学校・市民センター(地域防災拠点・物資備蓄場所) ● 朝霞駐屯地・朝霞中央公園・東洋大学(ヘリコプターの臨時離着陸場) ● 朝霞中央公園野球場・総合体育館(物資を集める拠点)
避難場所	災害時に市民の安全を確保するための緊急避難場所です。学校、公民館、保育園、公園などが指定されています。

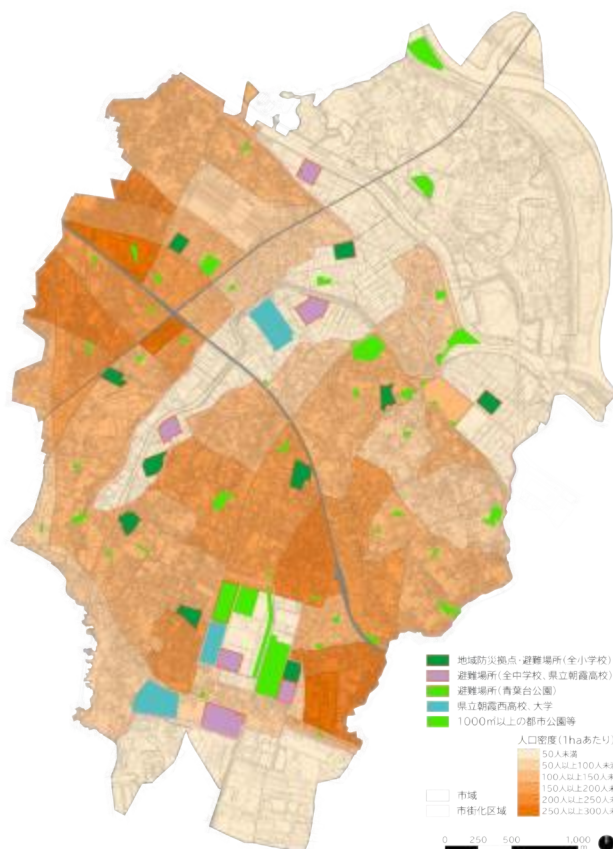


図 参-26 避難場所等のオープンスペースと人口密度

1 みどりの多面的効用に着目した分析

(5) みどりの総合評価

みどりの保全や施設整備をどの場所から優先的に進めるかを検討するためには、みどりを持つさまざまな価値を総合的に把握する必要があります。そこで、これまで個別に分析してきたみどりの各機能を一つにまとめる総合評価を行いました。

① 総合評価の方法

評価を統合するにあたっては、市民アンケート調査の結果を活用しています。具体的には、「みどりの各機能に対して、仮に合計 1,000 円を支払うとしたら、それぞれにいくらずつ配分するか」という問いを設けて、その回答結果（金額の割合）をそれぞれの評価結果の重みとして用いています。総合評価では、評価の視点を次の 2 つの軸に分けて整理しました。

- みどりの保全性評価軸：今ある豊かなみどりを守ることを検討するための評価
- みどりの必要性評価軸：新しいみどりの必要性を検討するための評価

それぞれの統合にあたっては、まず、計算単位や数値が異なる各評価の結果を標準化して、比較できる形に変換しました。そのうえで、前述の市民アンケートによる重み付けをし、合算しています。

〔標準化：単位が異なる複数のデータを、平均が 0、分散が 1 になるように変換し、同じ基準で比較できるようにすることです。〕

表 参-8 みどりの機能別評価軸と重み付け

区分	みどりの機能	家庭の支払額	重みの割合
みどりの保全性 評価軸	水害抑制(湧水涵養)	135 円	13.5%
	ヒートアイランド現象の緩和	125 円	12.5%
	炭素固定(CO ₂ 吸収)	158 円	15.8%
	地域生態系の保全	91 円	9.1%
	郷土の景観の保全	64 円	6.4%
	農業活動の場の保全	47 円	4.7%
みどりの必要性 評価軸	健康増進の場の充足	90 円	9.0%
	身近な遊び場の充足	121 円	12.1%
	にぎわい創出空間の充足	36 円	3.6%
	避難有効空間の充足	106 円	10.6%

② 今ある豊かなみどりを守ることを検討するための評価

水害の抑制、ヒートアイランド現象の緩和、炭素固定、地域生態系の保全、郷土の景観の保全、農業活動の場の保全など、これらのみどりが持つさまざまな守る力を統合して評価した結果、以下のことが分かりました。

a. みどりのはたらきが大きい場所

保全性評価軸において特にみどりのはたらきが大きいと評価されたのは、基地跡地、朝霞調節池、城山公園、黒目川のほか、根岸台など斜面林です。また、荒川河川敷や陸上自衛隊朝霞駐屯地内の草原、浜崎・田島・根岸台・内間木などの農地も、大きな役割を担っていることが確認されました。

b. みどりのチカラを守り、育むための現状とポイント

これらの場所には、すでに緑地として守られている場所もありますが、斜面林の一部にはまだ担保性がない場所が見られます。また、市街地にある農地は、住宅地などへの転用が進みやすい環境にあります。すでに緑地として守られている場所であっても、適切な管理が十分に行き届かず、みどりが持つ本来の機能が十分に発揮できていない場合もあると考えられます。

一方、みどりの少ない市街地では、評価が低い傾向にあります。こうした場所では、木陰を作る樹木の配置や、雨水を地面にしみ込ませる舗装の導入など、それぞれの場所の条件に合わせたみどりのチカラを高める工夫が必要です。

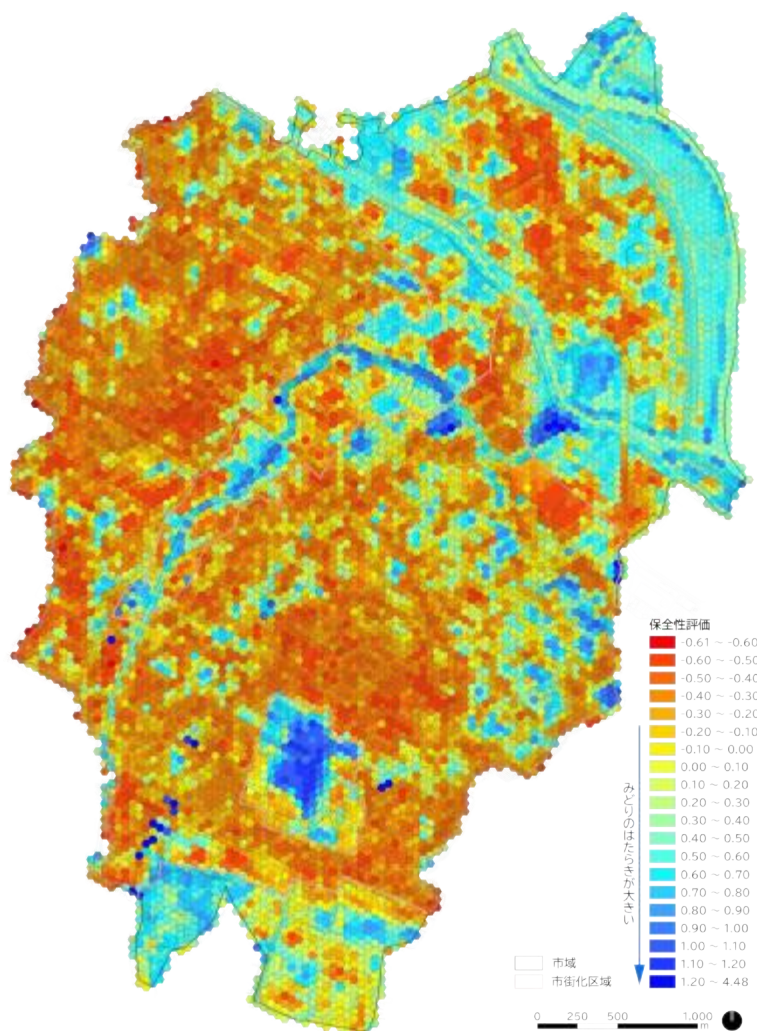


図 参-27 今ある豊かな自然を守ることを検討するための評価図

1 みどりの多面的効用に着目した分析

③ 新しいみどりの必要性を検討するための評価

健康増進、身近な遊び場、にぎわい交流、避難場所としてみどりを利用する視点から、新しく作ったり改善したりする必要性を評価した結果、以下のことが分かりました。

a. みどりのサービスが充実している場所

レクリエーションや防災機能など、みどりのサービスを十分に提供できている場所としては、青葉台公園、朝霞の森、シンボルロード、朝霞中央公園、城山公園、田島緑地、内間木公園、上野荒川運動公園、黒目川、荒川、新河岸川などが挙げられます。特に基地跡地の周辺一帯は、多くの人々が住んでいる中で、遊びや防災、にぎわいといったさまざまな機能を備えており、中心的な場所として大きな役割を果たしています。

b. 今ある強みを生かし、市民のニーズに応える工夫

本町の北部、栄町の東部、朝志ヶ丘から三原、弁財にかけてのエリアは、公園などのオープンスペースが少なく、人口密度が高いこともあり、みどりのサービスが不足している傾向にあります。こうした地域の方々が、日常の中でみどりの恩恵をもっと身近に感じられるような工夫が求められています。

一方、本市では、黒目川をはじめとする河川空間が、日常の楽しみや運動の場として大きな役割を果たしているのが特徴です。今後は、この独自の強みを最大限に生かし、公園と河川、そして快適に歩ける空間を効果的に組み合わせることで、市民の多様なニーズに応えていくことが重要と考えられます。点として存在する公園をつなぎ、まち全体をみどりのネットワークで包んでいくことが、これからのまちづくりの鍵となります。

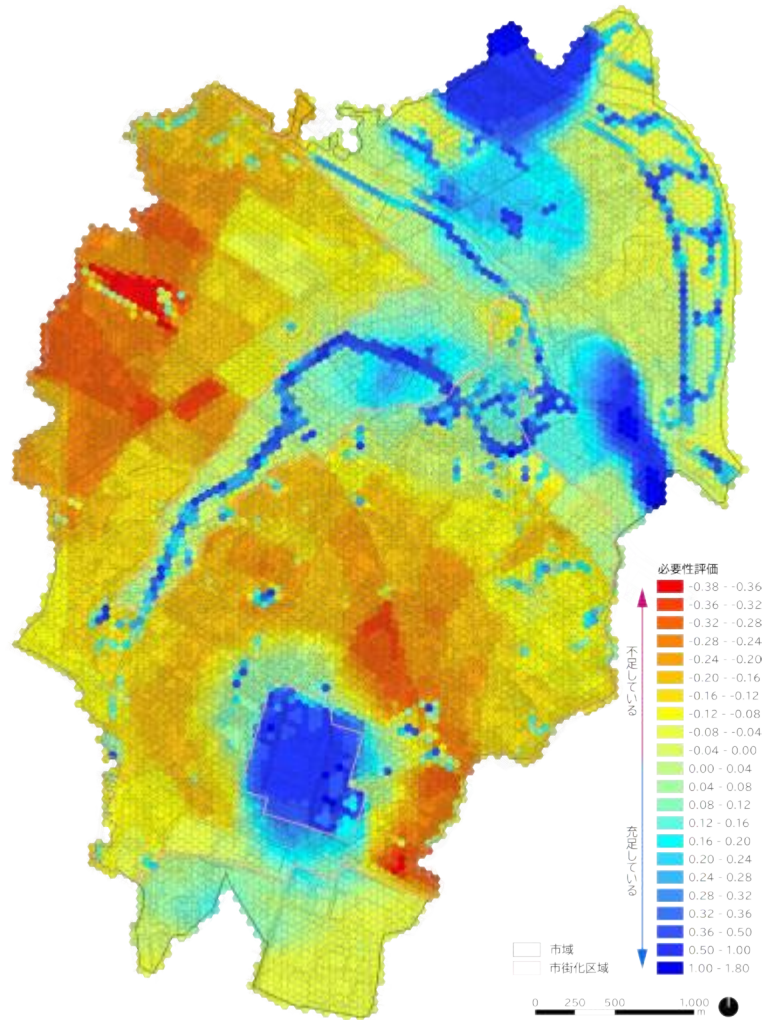


図 参-28 みどりを新しく作ったりする必要性を検討するための評価図

2 みどりの市民アンケート調査

(1) アンケート調査の目的と方法

本計画の改定にあたり、市民のみどりに対する意識や今後のまちづくりに対する意向を把握し、計画の改定に向けた検討の基礎資料とすることを目的として、市民アンケート調査を実施しました。

① 配布と改修の方法

- 対象者：市内に在住する13歳以上の市民 3,000人
- 抽出方法：住民基本台帳に基づき、地域別人口構成を考慮した無作為抽出
- 配布方法：対象者へ依頼状、アンケート用紙、返信用封筒を郵送
- 回収方法：郵送（返信先：朝霞市役所みどり公園課）またはWEB回答フォームへの入力
- 調査期間：配布：令和6年9月27日
回収締切：令和6年10月15日（投函およびWEB入力締切）

② アンケートの回収数

- 郵送法 737人
- WEB回答 208人
- 合計 945人・・・回答率31.5%

③ 設問項目

表 参-9 市民アンケート調査の設問構成

属性	年齢、職業、居住歴、世帯構成、居住地
問1	朝霞市のみどりに対する満足度
問2	豊か・魅力的と感じるみどり
問3	将来に残していきたいと思うみどり
問4	市内の公園の利用頻度
問5	お住いの近くの公園について
問6	みどり豊かなまちづくりを推進するための重要な施策
問7	緑化活動・緑地保全活動への参加経験
問8	市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験
問9	自然環境が有する多様な機能の認知度
問10	みどりを守るための仮定の支払い意思
意見・要望	みどりのまちづくりについての意見・要望

2 みどりの市民アンケート調査

(2) アンケート調査の結果概要

① 回答者の属性

- 回答者の年代は、50代(18.2%)が最も多く、次いで60代(17.9%)、40代(15.6%)となりました。40代から60代で全体の約半数を占めています。
- 市内での居住年数は、「30年以上(36.6%)」が最も多く、次いで「20年以上30年未満(20.0%)」となりました。20年以上市内に在住している方が半数を超えており、定住性の高い回答者が多い傾向にあります。
- 世帯構成は、「その他(二世帯同居等、24.7%)」が最も多く、次いで「単身者(22.6%)」、「夫婦のみ(21.3%)」となりました。また、18歳未満のこどもがいる世帯は全体の30.6%です。その内訳は、一番上の子が「小学生・中学生」である世帯が11.0%、一番上の子が「小学校入学前」である世帯が7.2%となっています。
- 回答者の居住地を地域別にみると、南部地域(38.2%)が最も多く、次いで東部地域(20.8%)、北部地域(19.8%)の順となっています。

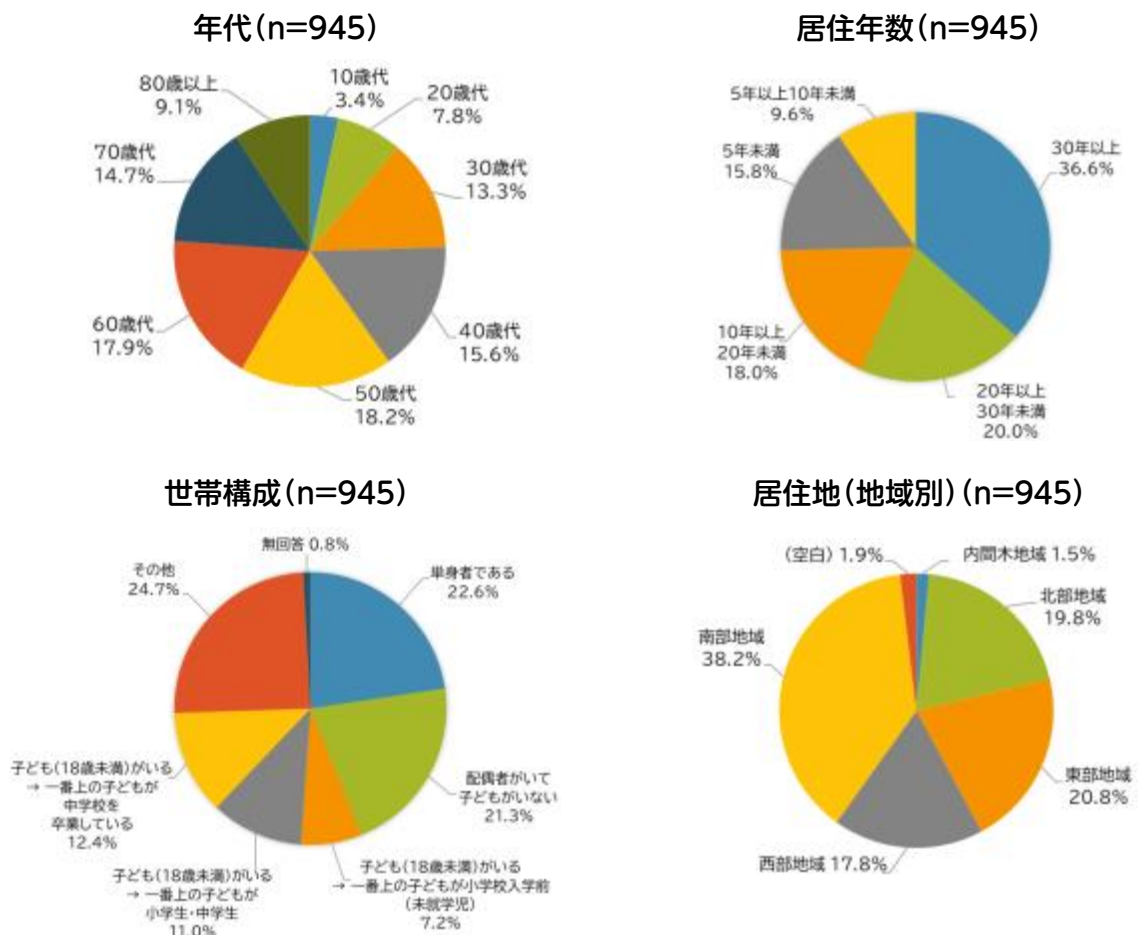


図 参-29 回答者の属性

② みどりの満足度について

a. 全体

満足度が最も高かったのは、「朝霞市のみどりの豊かさや魅力(+0.29)」で、次いで「住まいの近くのみどりの豊かさや魅力(+0.19)」となりました。一方で、満足度が最も低かったのは「公園などでレクリエーション活動が楽しめる(-0.03)」で、唯一のマイナス評価となりました。また、「災害時の避難地や拠点として機能する公園がある(+0.02)」も比較的到低い評価にとどまっています。

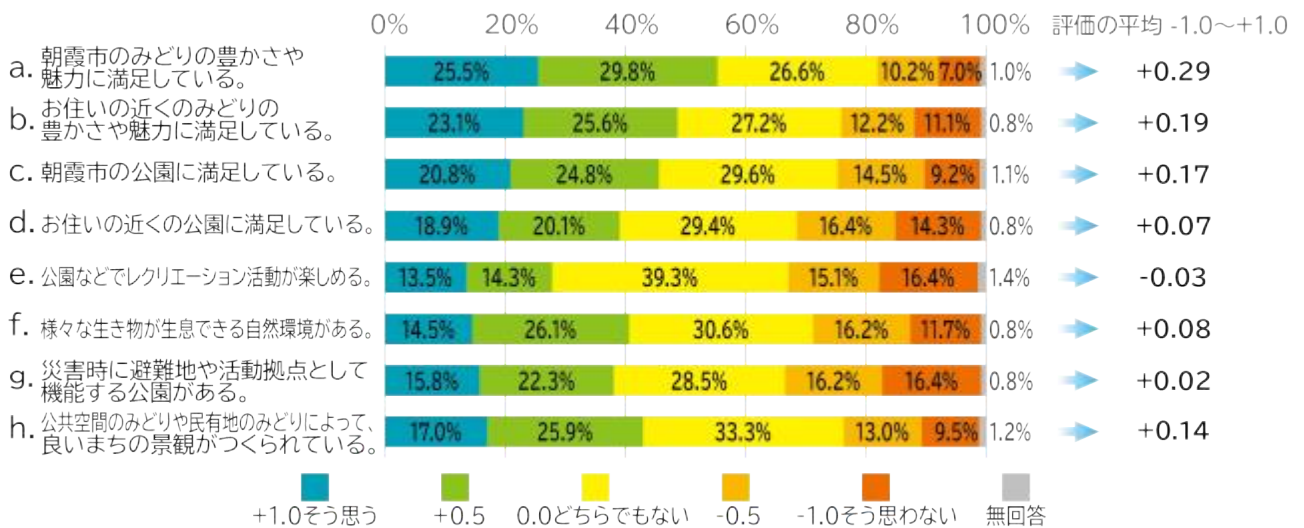


図 参-30 朝霞市のみどりに対する満足度

b. 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している」×年代別

年代別にみると、40歳代(+0.43)が最も満足度が高く、子育て世代などの現役世代から評価されている傾向が見られます。一方で、80歳代(+0.1)が最も低い評価となりました。

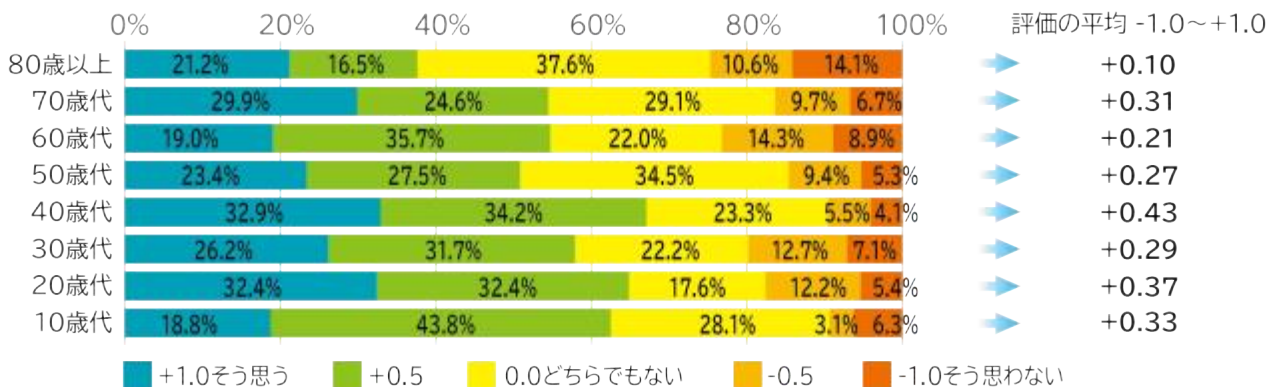


図 参-31 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」《年代別》

2 みどりの市民アンケート調査

c. 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している」× 地域別

地域別の傾向では、南部地域と西部地域で評価が大きく分かれる結果となりました。

- 市全体のみどりの豊かさ・魅力に対する満足度では、最も高いのは南部地域(+0.49)で、最も低いのは西部地域(+0.03)でした。
- 住まいの近くのみどりの豊かさ・魅力に対する満足度では、こちらも南部地域(+0.41)が最も高く評価されています。一方で、西部地域(-0.10)と北部地域(-0.02)はマイナス評価となり、身近なみどりに対する満足度の低さが顕著に表れています。

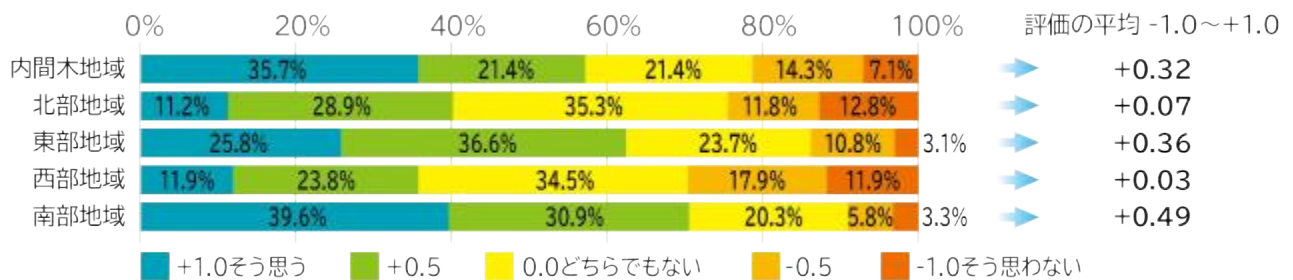


図 参-32 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」《地域別》

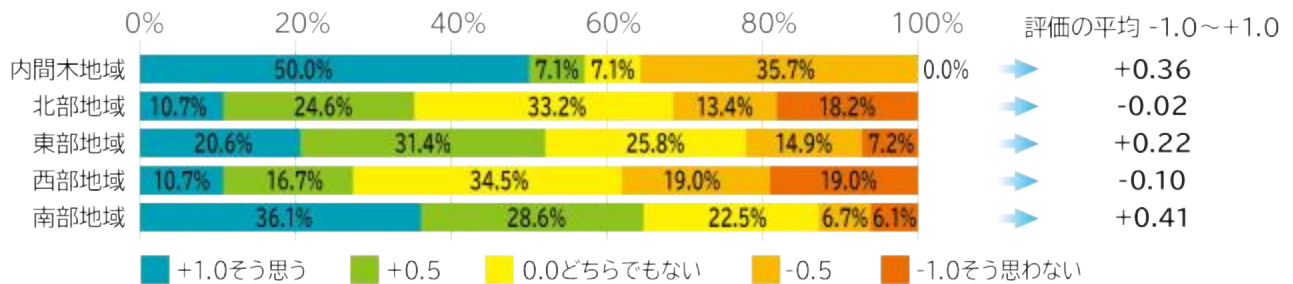


図 参-33 「お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」《地域別》

③ 豊か・魅力的と感じるみどり

最も豊かで魅力的と感じる場所として、黒目川(331人)が突出して多くの票を集めました。次いで、青葉台公園やシンボルロード、朝霞の森などが上位に挙げられています。

- 河川：黒目川(331人)が最多。新河岸川や越戸川も魅力的な水辺として認識されています。
- 公園：青葉台公園(116人)、城山公園(70人)、朝霞中央公園(43人)、滝の根公園(35人)といった、面積の広い公園が高い評価を得ています。
- その他：シンボルロード(115人)や朝霞の森(106人)が、公園と同様に多くの市民に親しまれています。

④ 将来に残していきたいみどり

将来に残していきたいみどりについては、朝霞の森(158人)と黒目川(154人)がほぼ並んで多くの支持を集めました。

- 拠点的なみどり：朝霞の森(158人)、シンボルロード(42人)、基地跡地(34人)といった朝霞を象徴するエリアの保全を望む声が多く寄せられました。
- 河川：魅力度でも1位だった黒目川(154人)が、将来に引き継ぐべき貴重な自然として認識されています。
- 主要な公園：城山公園(85人)や青葉台公園(55人)、滝の根公園(27人)など、比較的規模の大きい公園が上位に挙がっています。

⑤ お住いの近くの公園について × 地域別

公園の施設や環境について地域別に分析したところ、地域によって評価が分かれる結果となりました。特に南部地域では肯定的な評価が多い一方、その他の地域では今後の改善を期待する傾向が見受けられます。

- ベンチ等の休憩施設の充実度：ベンチなどの休憩施設については、北部地域と西部地域でやや低い評価となりました。
- 安全に遊べる遊具の充実度：「安全に遊べる遊具が充実している」との回答は、南部地域(+0.16)が最も高く、その他の地域では課題を感じている方の割合が比較的高い結果となっています。
- 景観の良さ：「公園の植物がよい景観をつくっている」という項目では、南部地域(+0.37)で高い評価が得られました。
- 木陰の確保：「夏の日よけになる木陰が十分にある」という項目についても、南部地域(+0.36)で高い評価が得られました。

2 みどりの市民アンケート調査

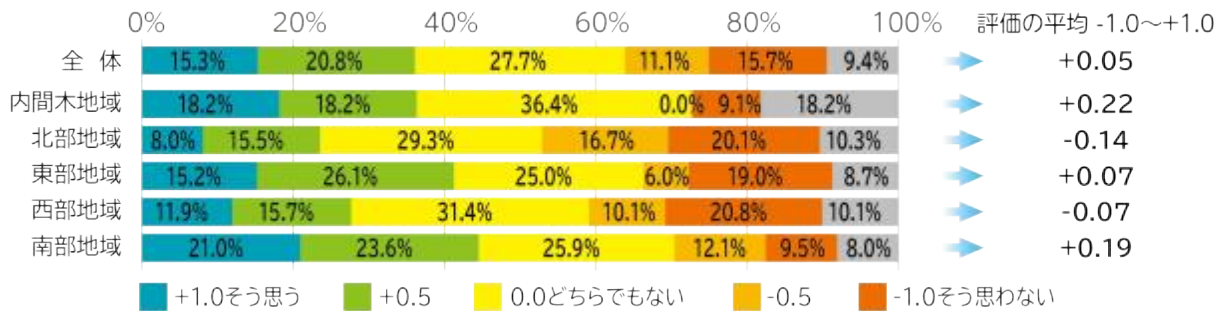


図 参-34 「ベンチなどの休憩施設が充実している。」《全体・地域別》

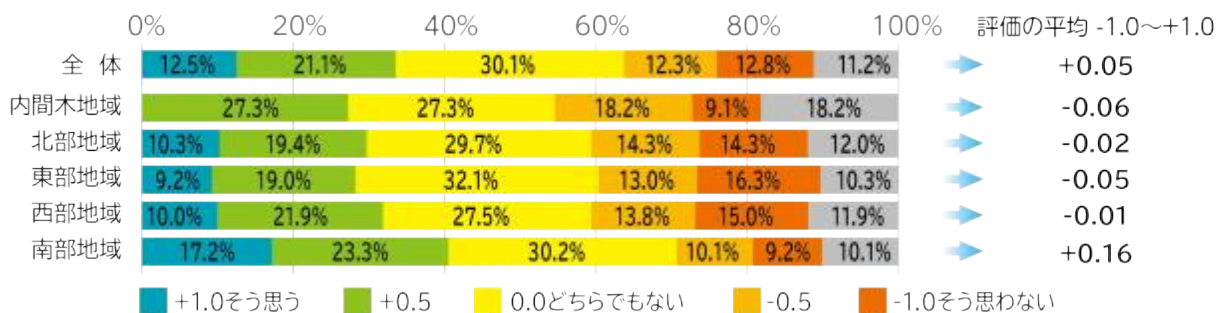


図 参-35 「安全に遊べる遊具が充実している。」《全体・地域別》

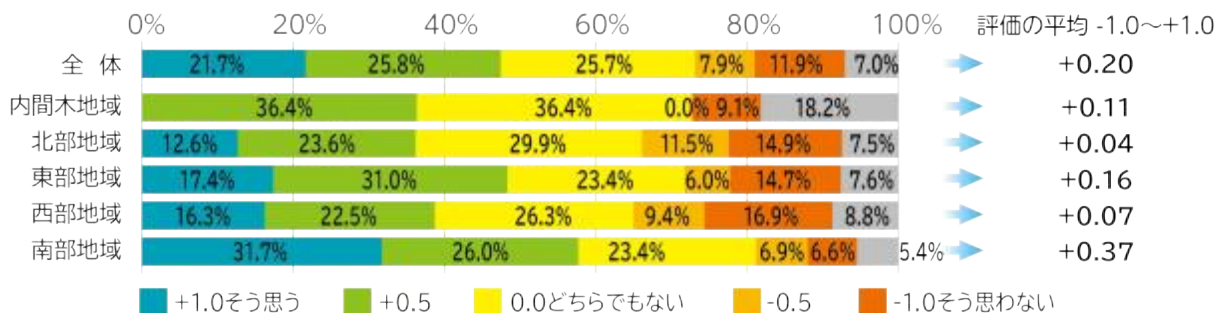


図 参-36 「公園の植物がよい景観をつくっている。」《全体・地域別》

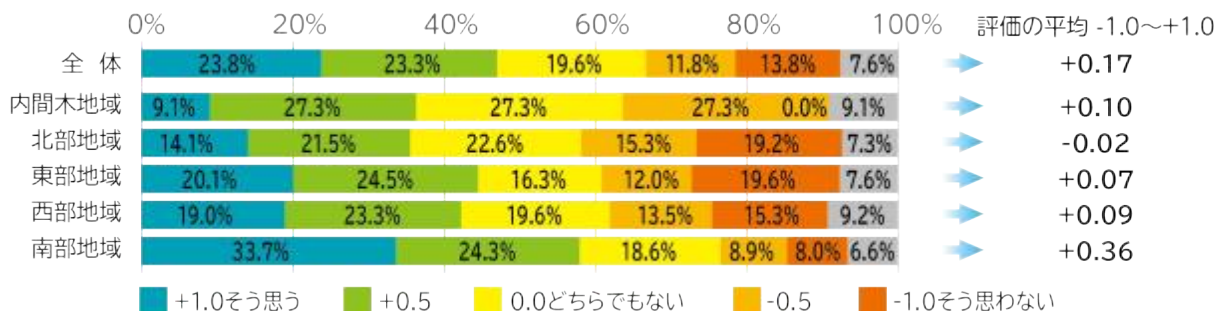


図 参-37 「夏場の日よけになる木陰が十分にある。」《全体・地域別》

⑥ みどり豊かなまちづくりを推進するための必要な施策

今後必要だと思う施策については、「道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(351件)」が最も多くの支持を集めました。次いで「だれもが気軽に利用できる身近な公園や緑地の充実(292件)」、「川沿いの遊歩道の充実(242件)」が挙げられ、日常生活に密着した整備を望む結果となりました。

属性・地域別の傾向を見ると、身近な公園・緑地の充実は、10～20代の若年層や70代以上の高齢層、未就学児のいる世帯など幅広い層から支持されています。地域別では、内間木地域(34.4%)において特に関心が高い結果となりました。

また、世代による期待の違いについては、子育て世代がレクリエーション空間を重視する一方で、世代が上がるにつれて安全な歩行環境や自然とのふれあいを望む声が高まるなど、それぞれのライフステージに応じたニーズの変化が見受けられます。

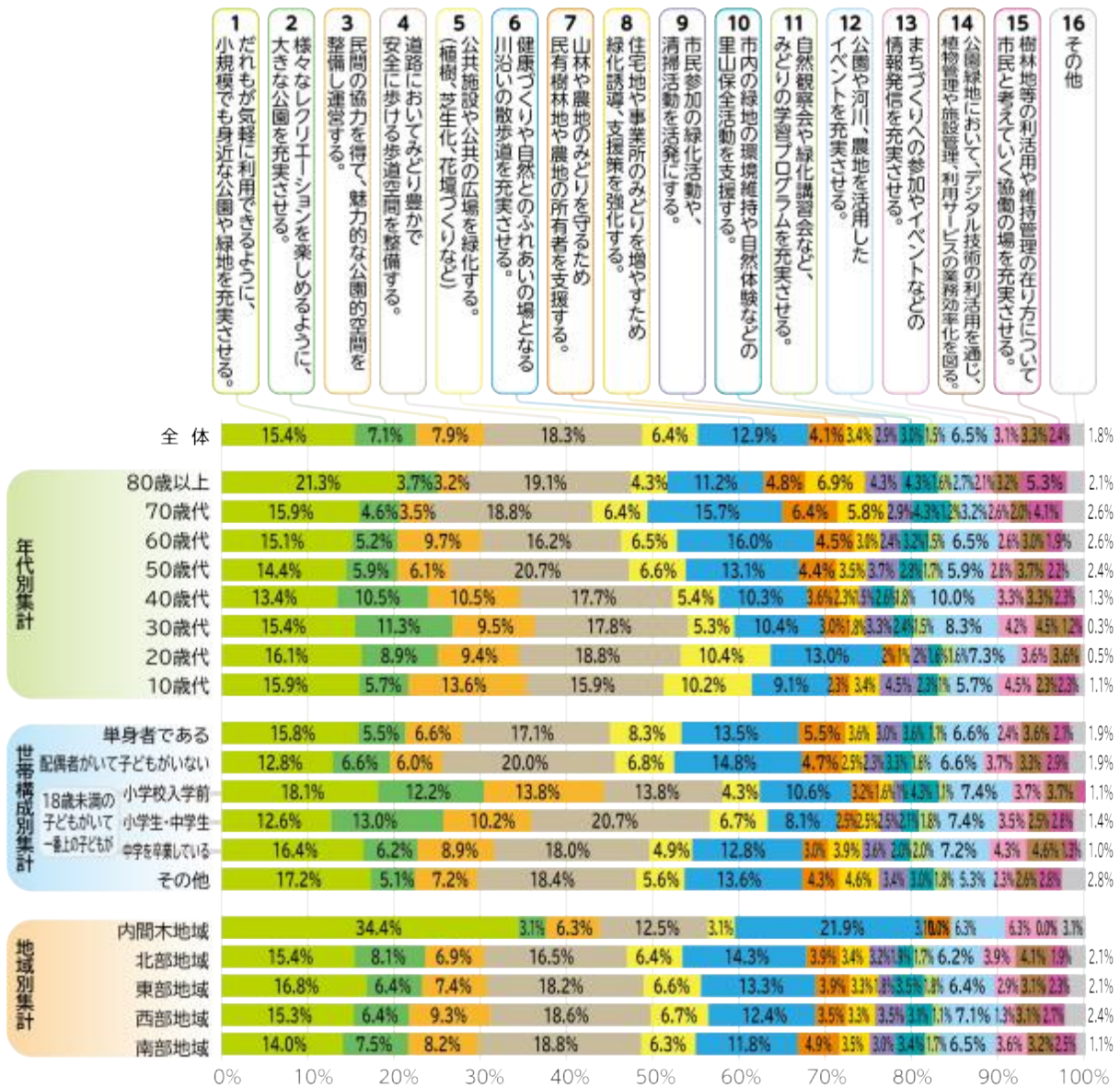


図 参-38 みどり豊かなまちづくりの推進に必要なと思われる施策
《年代別・世帯構成別・地域別集計》

2 みどりの市民アンケート調査

⑦ みどりの活動への参加経験

緑化や緑地保全活動への参加経験については、「生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(10.7%)」が最も多く、次いで「道路などの清掃活動(10.3%)」となりました。

年代別の傾向を見ると、高齢層では清掃活動や自宅の緑化への参加経験が比較的高い一方で、若い世代ではこれらへの参加が少なくなっています。また、子育て世代においてはプレーパークなどこどもに自然との遊び方を教える活動や身近な生き物観察・みどりの調査に参加する方が多い傾向にあります。

一方で、70歳代や80歳以上の層では全ての活動に参加したことがない方の割合が他の世代に比べて高くなっており、世代によって活動への係わり方に違いが見受けられます。

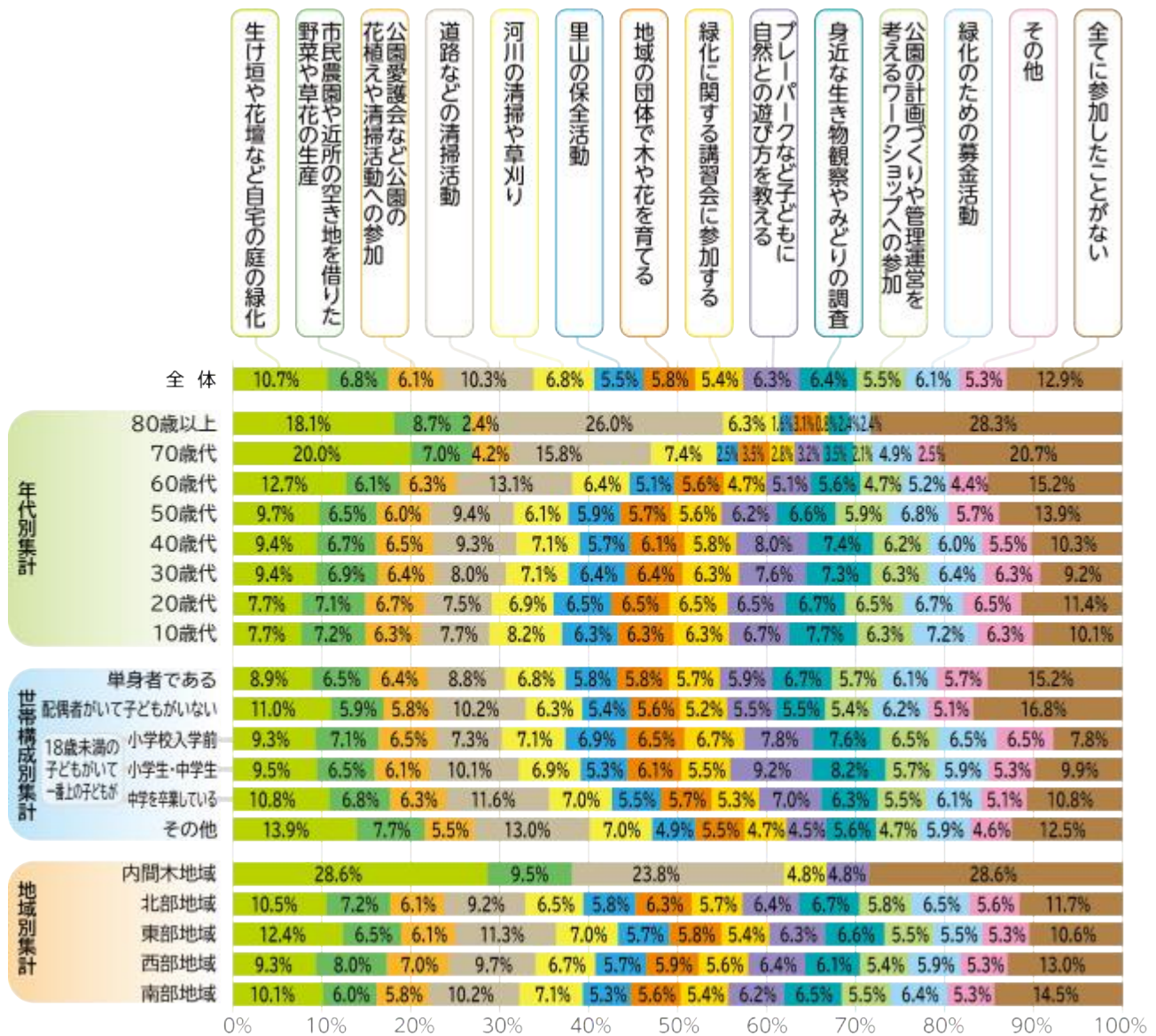


図 参-39 年代別・世帯構成別・地域別の参加活動構成比

⑧ 市内の公園や緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験について

市内の公園や緑地で開催されるイベントやまつりへの参加経験については、「彩夏祭(64.8%)」が最も多く、次いで「黒目川花まつり(46.3%)」、「身近な公園で開催される納涼祭やイベント(27.3%)」の順となりました。また、「あさか冬のあかりテラス(25.6%)」や「ASAKA STREET TERRACE(23.3%)」も上位に挙げられています。

属性別の傾向を見ると、子育て世代において朝霞の森プレーパークや農業収穫体験、移動式プレーパークといった体験型イベントへの参加割合が全体に比べて高い結果となりました。公園等の空間が、子どもたちの遊びや貴重な体験の場として活用されている状況が伺えます。

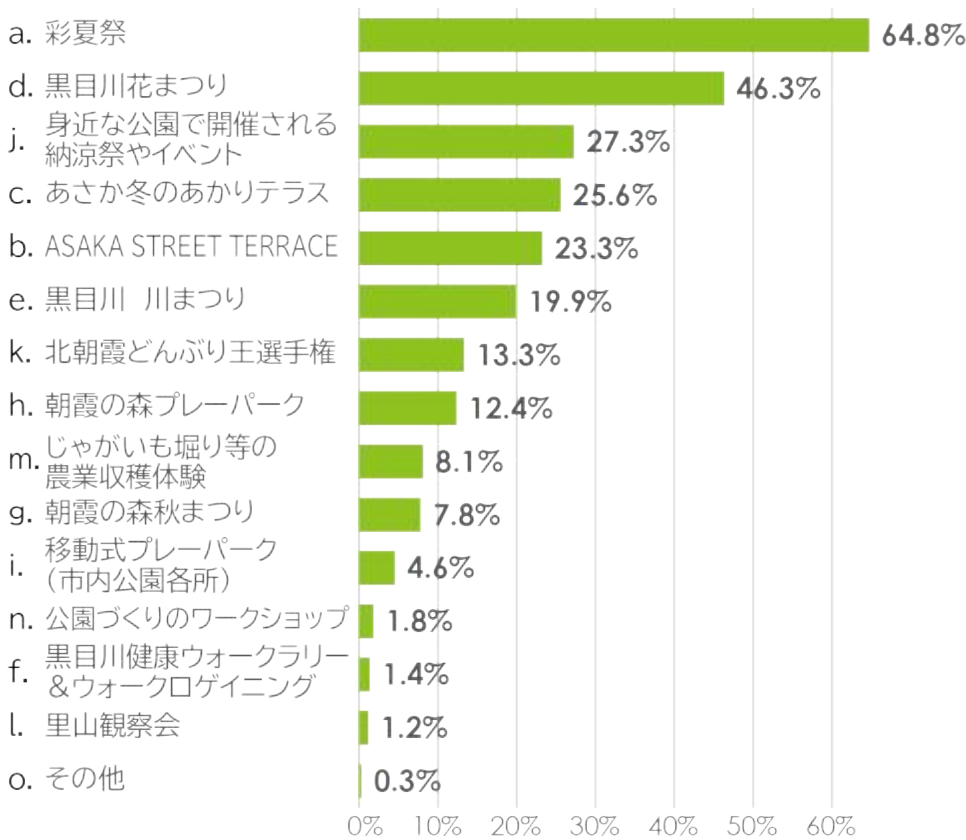


図 参-40 市内の公園や緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験

2 みどりの市民アンケート調査

⑨ みどりを守るための仮定の支払い意思について

総額 1,000 円持っているとしたら、みどりの持つ機能にどのように配分するかを調査したところ、全体では「CO₂ の吸収源となり地球温暖化を緩和するみどり(158 円)」が最も高く、次いで「自然災害による被害を軽減するみどり(135 円)」、「都市の気温上昇を緩和するみどり(125 円)」、「こどもの遊び場や散歩の場となるみどり(121 円)」の順となりました。

属性や地域別に見ると、子育て世代や内間木地域では「こどもの遊び場や散歩の場となるみどり」への評価が最も高くなっており、ライフステージや居住環境によってみどりに期待する役割に違いが見られる結果となっています。

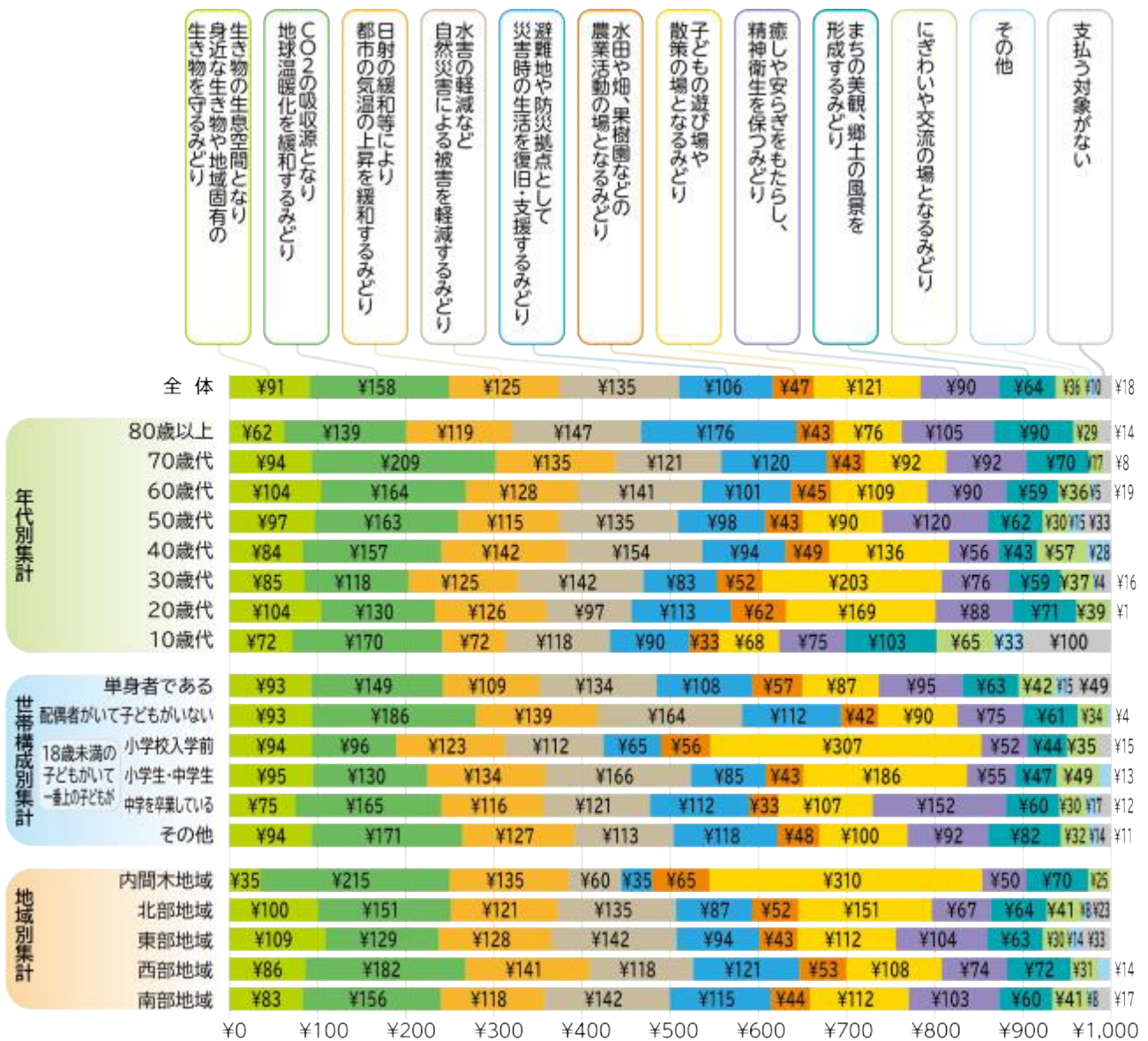


図 参-41 みどりを守るための仮定の支払い意思《全体・年代別・世帯構成別・地域別》

3 みどりの基本計画の策定に向けた市民ワークショップ

(1) シンボルロードの緑地管理を考える勉強会

令和 2(2020)年にオープンしたシンボルロードは、みどり豊かな憩いの場として多くの市民に親しまれています。一方で、木々が大きく育ちすぎて混み合ったり、手入れが必要な老木が増えたりするなど、みどりの質を保つための課題も見受けられるようになりました。

こうした背景から、これまで専門家と市民が参加するワークショップが開かれ、どう使い、どう守っていくかという視点から、管理計画の策定に向けた話し合いが進められてきました。令和 6 年 3 月には、樹木医の協力を得て、現地の木々の魅力や課題を整理する勉強会が行われました。

今回の勉強会は、その内容をさらに深めるものとして開催されました。みどりを管理する上で大切な視点を改めて学ぶとともに、現地の樹木を題材にして、どのような手入れがふさわしいのかを具体的に解説しました。朝霞のまちのシンボルとなっている場所を、次世代へ健やかに引き継いでいくための重要なステップとなっています。



現地での勉強会の様子

- 日時：令和 7 (2025) 年 1 月 26 日 (日曜日) 午前 10 : 00 ~ 12 : 00
- 場所：朝霞市役所大会議室 (座学) → シンボルロード (現地樹木を題材とした勉強会)
- 講師：都市緑化機構環境緑化技術共同研究会 伊東伴尾 豊田幸夫 直木哲 藤田茂 今井一隆
- 参加人数：15 名

【講師による現場での解説・提案の内容】

<p>〈安全と樹木の健全性対策〉</p> <ul style="list-style-type: none">・どのような樹林にしたいか検討する必要がある。・樹木の密度管理が必要である、大木の周りの実生木の除伐が必要である。・枯れ枝や細い枝は早めに撤去することが推奨される。 <p>〈特定の樹木の保全〉</p> <ul style="list-style-type: none">・シンボルツリーの保全が必要である。・ヤマザクラを保全する場合は周りの木を除伐する必要がある。 <p>〈特定の常緑樹の管理〉</p> <ul style="list-style-type: none">・アオキの実生木は剪定が必要である。・常緑の中木は視認性確保に配慮が必要である。	<p>〈貴重種の保護〉</p> <ul style="list-style-type: none">・日陰や落ち葉などの必要条件を確保する必要がある。・貴重種の保護看板の設置が推奨される。 <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none">・林床保護のため散策路やベンチの整備が推奨される。・剪定枝などで作るバイオネストの配置も推奨される。・イルミネーションは設置・撤去時に樹木へのダメージを避ける配慮が必要である。
---	---

3 みどりの基本計画の策定に向けた市民ワークショップ

(2) みどりの基本計画の策定に向けたワークショップ

これからのみどりのまちづくりを考えるため、参加者が意見を交わすワークショップを開催しました。このワークショップでは、まちの課題や魅力的な資源を見つけ出し、将来の姿やそれを実現するためのアイデアについて、グループに分かれて話し合いを行いました。

- 日時：令和7年2月22日（土曜日） 午前10:00～12:00
- 場所：中央公民館・コミュニティセンター 1階 第1・第2集会室
- 参加人数：15名

グループワークのテーマは、市民アンケート調査の結果などを踏まえ、身近な遊び場、歩くことが楽しいまちづくり、シンボルロードの緑地管理の3つを設定しました。



A班
(身近な遊び場)



B班
(歩いて楽しいまちづくり)



C班
(シンボルロードの緑地管理)



図 参-42 A班成果品

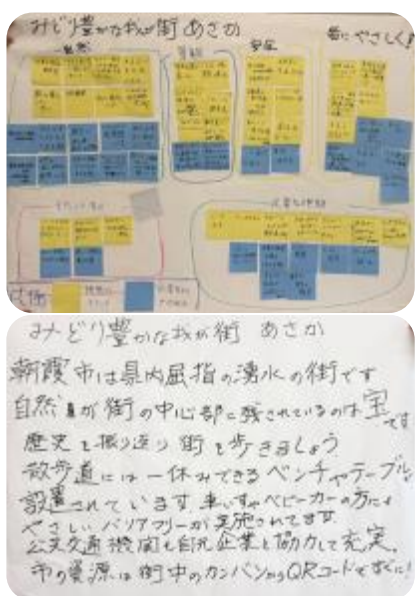


図 参-43 B班成果品



図 参-44 C班成果品

表 参-10 A班によるグループワークの内容

地域	ポテンシャルのある場所	遊びや学び、見守りの内容	現在の状態／必要なもの・仕組み
全域・広域	市内各所、公園、児童館、川の向こう側	見守り、防犯、ネットワーク、プレーパーク、ボール遊び、外遊びイベント、ウォーキング、ピクニック	<ul style="list-style-type: none"> 各所でのイベントを通じた地域の見守り（こども会・防犯パトロールの活用） 移動式プレーパークの実施 ボール遊びができる場所の確保と「場所マップ」の作成 児童館から外遊び（プレーパーク）へ導く仕掛けと大人への意識啓発 黒目川遊歩道の活用
北部地域	宮戸緑地、わくわく田島緑地、ふれあい花園、産業文化センター周辺、北朝霞公園、(仮称)宮戸二丁目公園、ジェネシティ周辺	緑地活用、フィッシュウォッチング、花壇、花見、花火、新たな公園整備	<ul style="list-style-type: none"> 里山クラブの活動 荒川でのニジマス・バス観察 産業文化センターと黒目川の一体的な活用（花火など） 田島緑地への駐車場・トイレ設置の要望 かつての緑地（マンション化）の記録
東部地域	向原公園、根岸台緑地、岡緑地、城山公園、あけぼの公園、水久保公園、根岸台自然公園、越戸川近くの樹林地、旧高橋家住宅、東圓寺、根岸通周辺	プレーパーク、緑地活用、森林浴、花見、外遊び、虫取り、散策、昔遊び、芋ほり、ひな祭り体験、イベント、お茶会、竹林	<ul style="list-style-type: none"> 里山クラブや保育園との連携 城山公園の森林浴、東圓寺での文化体験 旧高橋家での歴史・伝統文化体験 かつて虫取りができた私有地や、住宅地・商業地化したかつての緑地の記録 家族での散策スポット
西部地域	島の上公園、黒目川(桜堤・遊歩道周辺)	プレーパーク、水遊び、鮎釣り、フィッシュ・バードウォッチング	<ul style="list-style-type: none"> プレーパークの実施（魚・川遊びの増加） 裸足で歩ける川としての活用 アユ、カワセミなど豊富な生態系の観察
南部地域	中道公園、滝の根公園、朝霞の森、朝霞中央公園、陸上競技場、シンボルロード	遊具、アスレチック、冒険遊び場、キャンプファイヤー、季節の植物、ピクニック、野外調理、ウォーキング、サイクリング	<ul style="list-style-type: none"> 「あさかプレーパークの会」による活動 中道公園（遊具）、滝の根公園（アスレチック）の特色 朝霞の森での多角的な体験（調理・火・自然） シンボルロードの散策路としての魅力向上 課題：日除け、テーブル、椅子の設置（滞在時間の延長）
内間木地域	市民農園、内間木水路、新河岸川・荒川沿い(市境)、荒川(河川内)	自然体験、収穫体験、虫取り、フィッシュウォッチング、将来的な遊び場、舟・橋(動線)	<ul style="list-style-type: none"> 農家との協力による緑・土とのふれあい 内間木水路の豊かな生態系（メダカ・ドジョウ等）の観察 アクセスの改善が課題 川渡し(舟)の設置や橋の活用による回遊性の向上

〔地図に書き込まれた内容を、地域ごとに整理しています。〕

1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

3 みどりの基本計画の策定に向けた市民ワークショップ

表 参-11 B班によるグループワークの内容

将来像:みどり豊かな我が街あさか		
朝霞市が誇る県内屈指の湧水の街としての魅力を再発見し、歴史を背景に誰もが心地よく歩ける街を目指します。街の中心部に残る貴重な自然を宝として守り育て、IT(QRコード等)と地域コミュニティ(地元企業・ボランティア)が融合した、バリアフリーで環境にやさしいまちづくりを展開します。		
分野	理想のイメージ	必要なものや仕組み
自然	<ul style="list-style-type: none"> 四季を感じる自然豊かな散歩道がある 希少植物や野鳥の観察ができる 豊かな農地が守られている 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模集合住宅の開発規制 市民ボランティアと市職員による維持管理 農業振興や一次産業支援の充実 100年先を見据えた自然保護の検討
景観・回遊性	<ul style="list-style-type: none"> 湧水を巡る遊歩道がある 川沿いの景色を楽しみながら歩ける シンボルロードに歴史や環境を伝える看板やQRコードがある 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の公園や施設を点から線、面へつなぐネットワーク化 シンボルロードから朝霞の森までの散策路開通 魅力的なルートの広報 環境教育につながる案内看板の設置
安全	<ul style="list-style-type: none"> 車、自転車、歩行者が分離されている 黒目川等で自転車と歩行者が区別されている 電信柱がなく、見通しが良い 	<ul style="list-style-type: none"> 一方通行化や交通規制の実施 無電柱化の推進 安心して歩ける道の整備
ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や車椅子、ベビーカーでも歩きやすい道 「行きは良いが帰りは辛い」を解消する利便性 オープンデッキで買い物や食事が楽しめる 	<ul style="list-style-type: none"> スロープの設置や歩道の拡幅 乗合タクシーやシェアサイクルの整備 バス便の拡充 市役所から商店街の一方通行化とテラス設置
イベント・賑わい	<ul style="list-style-type: none"> 出かけたくなるイベントや目的がある 市役所前に常設のキッチンカーがありワクワクする こどもたちが喜ぶ遊具がある 	<ul style="list-style-type: none"> イベント運営に係るプレイヤーの育成 東洋大学等の学生との連携 楽しい遊具のある公園の増設
必要な施設	<ul style="list-style-type: none"> ひと休みできるベンチやテーブルがある 綺麗なトイレや水飲み場が遊歩道にある 挨拶ができる安全な環境、舗装広場がある 	<ul style="list-style-type: none"> ベンチ・テーブル、トイレ、水飲み場の設置 地元企業や店への協力依頼 シンボルロードから朝霞中央公園への横断歩道設置 スケボー等が可能な舗装広場、駐車場の整備

〔作成された地図においてひとまとまりに記述された意見を分野としてまとめ、各意見を理想のイメージと必要なものや仕組みの視点から整理しています。〕

表 参-12 C班によるグループワークの内容

シンボルロードの位置づけ 朝霞の森:森のコア ↔ シンボルロード:里山(まちと森が接する場) ↔ 市街地:まち		
項目	理想のイメージ	必要なものや仕組み
1. ビジョンを 考える	<ul style="list-style-type: none"> ・「次世代につなげる新しい里山(朝霞スタイル)」を理念とする ・名称は「朝霞の森シンボルロード」とし、朝霞の森の一部(遊歩道)として位置づける ・暮らし・交流・里山・里林をキーワードとし、人工的な公園ではない「まちの里山」を目指す ・朝霞の森を水源(流域上流部)として保全する 	<ul style="list-style-type: none"> ・考え続け、作り続けるプロセスが必要 ・人とのつながりを強化する仕組み ・朝霞の森とシンボルロードをつなげる道を開通させる ・朝霞の水を守る、流域保全の仕組み
2. ゾーンの 目標植生を 考える	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野に古くからある樹林(クヌギ・コナラ)を基本とし、生物多様性を大切にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーンごとの目標植生の決定(樹木医の知見活用) ・都市における森の在り方の目標設定
3. ゾーンごとの 作業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・目標植生に基づき、適切に更新・管理された安全な樹林地 ・枝を残した剪定により、鳥や花が集まる環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・木を切らないと日光が当たらない等の管理の常識を伝え、残していく仕組み ・土壌改善のためのボーリングの実施
4. 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体、市、専門家が協力し、管理の役割分担が明確化されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が管理に協力する仕組み ・誰が点検し、誰が何をするかを明確にした具体的な作業計画の策定 ・危険木の伐採等は3者立ち会いで行う
5. 実行と 見直し体制	<ul style="list-style-type: none"> ・常に内容を評価し、見直しができる仕組みがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・見直しのための継続的な仕組みづくり
歴史を次世代 に伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史を次世代(こどもたち)に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 基地の歴史だけでなく、それ以前の武蔵野の森の歴史から教える仕組み。こどもが森に入り興味を持つ機会の創出
生き物との ふれあい	<ul style="list-style-type: none"> ・カブトムシや鳥がたくさん来る環境 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち葉を堆肥として活用し、カブトムシを育てる。巣箱の設置など、鳥が来る仕組み
基地跡地の中	<ul style="list-style-type: none"> ・基地跡地内部の樹林の変化を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> 内部に入る機会を設け、10年間で変化した現在の樹林環境を知る調査
保安・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な場所であること。 ・適度な照明(生態系配慮と防犯の両立) 	<ul style="list-style-type: none"> シンボルロードの保安・防犯の仕組みづくり
利便性	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレや各施設へのアクセスが良い 	<ul style="list-style-type: none"> 横断歩道を増設し、シンボルロードから周辺公共施設のトイレを利用しやすくする

〔 項目の番号は、緑地管理計画の構成における順序を示したものです。 〕

1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

4 みどりの取組（施策の個表）

1 暮らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える

施策の柱	基本施策	個別施策
1-1 樹林地と農地の保全	(1) 樹林地等の担保性の向上	①特別緑地保全地区の指定 ②保護地区・保護樹木の指定 ③文化財保護制度の運用 ④公有地化による樹林地等の確保 ⑤景観重要樹木の指定
	(2) 良好な里山環境の維持・再生	①里山保全活動の推進 ②里山管理ガイドラインの策定
	(3) 都市農地の保全	①生産緑地・特定生産緑地制度の運用 ②遊休農地の活用促進 ③景観作物の栽培 ④災害時の都市農地の活用
1-2 水辺の保全	(1) 湧水の保全	①湧水地及び周辺環境の保全 ②雨水貯留浸透の推進
	(2) 河川の保全	①荒川近郊緑地保全区域における河川環境の保全 ②黒目川・新河岸川・越戸川の環境保全 ③朝霞調節池内の湿地環境の保全
1-3 公園の整備と管理	(1) 公園の整備推進	①身近な公園の適正配置 ②基地跡地公園の整備推進 ③内間木公園の整備推進
	(2) 公園機能の充実	①防災機能の充実 ②バリアフリー・インクルーシブデザインの推進
	(3) 公園の維持管理の充実	①施設の維持管理の充実 ②維持管理性と美観を保つ公園等植栽管理指針の策定
1-4 道路・河川のみどりの育成	(1) 街路樹・並木の整備と管理	①持続的な植栽のあり方に関する検討 ②街路樹の適正な維持管理
	(2) ウォークアブルな空間形成	①河川沿いの散策路・親水広場の整備・管理 ②歩道のネットワーク化と管理 ③休息や健康づくりの場の整備
1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	(1) 公共施設のみどりの整備・管理	①公共施設の緑化と管理 ②公共施設の植栽管理指針の策定
	(2) 民有地のみどりの整備促進	①緑化支援制度の運用 ②まちづくりの制度を活用したみどりの確保

2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

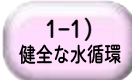
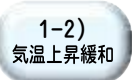
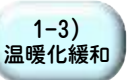
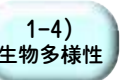
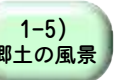
施策の柱	基本施策	個別施策
2-1 みどりの担い手の育成と連携	(1) みどりの担い手の育成	①プレーパークの推進 ②みどりの講習会等の実施 ③環境学習の実施 ④教育分野における農業体験の促進 ⑤食育の推進
	(2) 担い手の連携の拡充	①担い手のマッチング ②ボランティア活動団体の交流の促進 ③民間企業等の参画の促進 ④農の担い手の育成
2-2 みどりをしなやかに使う仕組みづくり	(1) 公園等の管理を通じたまちづくり	①公園サポーター制度の推進 ②市民や活動団体による朝霞の森の管理運営 ③みどりのリサイクルの推進
	(2) 多様なニーズに対応するみどりの確保	①市民農園の推進 ②市民緑地制度等の活用 ③公園ごとの利用ルールづくり
2-3 みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり	(1) みどりのモニタリングの実施	①グリーンインフラの実態調査の実施 ②市民協働の生き物調査による生物データベースの整備 ③みどりの市民アンケート調査の実施
	(2) みどりの普及啓発の推進	①グリーンインフラの多面的効用の評価と公表 ②グリーンインフラの多面的効用に資する緑化指導 ③地域社会に貢献するみどりづくりの促進
2-4 みどりの支援体制の強化	(1) 財源の確保と活用	①補助金等の活用 ②多様な財源の運用
	(2) みどり・公園分野におけるDXの推進	①公園管理におけるDXの推進 ②WEBを活用したグリーンインフラの普及啓発

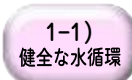
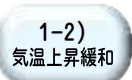
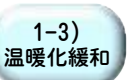
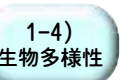
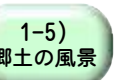
3 みどりのある暮らしを楽しむ

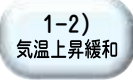
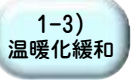
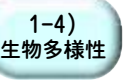
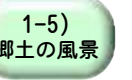
施策の柱	基本施策	個別施策
3-1 みどりのシティプロモーションの展開	(1) みどりに触れ楽しめるイベントの開催	①みどり空間を活用したイベントの開催 ②里山環境の活用 ③農を通じた交流の場づくり
	(2) 情報発信の強化と充実	①みどりの情報発信 ②市民イベント情報の集約と発信
3-2 みどりのある暮らしの実践	(1) みどりを楽しむ	①家庭での緑化や菜園づくり ②農産物直売施設等の利用 ③地産地消の実践 ④みどりを生かした健康づくり ⑤みどりのイベントへの参加
	(2) みどりのボランティア活動への参加	①みどりのボランティア活動への参加 ②みどりのリサイクルへの参加 ③みどりに係る講習会への参加
	(3) みどりの交流の拡大	①民間のみどりの公開 ②SNSを活用したみどりの交流

4 みどりの取組（施策の個表）


施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(1) 樹林地等の担保性の向上																																	
個別施策	① 特別緑地保全地区の指定		実施状況	継続																																
方向性	市内に残されている良好な樹林地などのうち、特に保全が必要な場所については、特別緑地保全地区に指定し、開発行為などを規制することで、良好な樹林地を守ります。																																			
内容	<p>○都市緑地法に基づく制度であり、良好な自然的環境を形成している緑地を都市計画に定め、建築行為や開発行為を許可制により規制するものです。</p> <p>○樹林地等の緑地を保全する規制力が非常に強い手法であり、現状維持が原則となります。</p> <p>○現在保全策が講じられていない良好な樹林地のうち、地権者の同意が得られる箇所について順次指定を検討します。特に、宮戸、郷戸、新屋敷の既指定区域と一体となる未指定の樹林地等について、指定を検討します。</p>																																			
対応指針	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #f0e68c;">1-1) 健全な水循環</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #f0e68c;">1-2) 気温上昇緩和</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #f0e68c;">1-3) 温暖化緩和</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #f0e68c;">1-4) 生物多様性</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #f0e68c;">1-5) 郷土の風景</div> </div>																																			
関係者	行政、地権者	担当課	みどり公園課																																	
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(1) 樹林地等の担保性の向上																																	
個別施策	② 保護地区・保護樹木の指定		実施状況	継続																																
方向性	朝霞市緑化推進条例に基づく保護地区・保護樹木に指定し、市内の貴重な樹木や樹林地を保全して、地域のみどりの景観と生態系を維持します。																																			
内容	<p>○朝霞市緑化推進条例に基づき、市内の樹木や樹林地のうち、特に保護すべきものを保護樹木や保護地区として指定し、その保全を図る制度です。</p> <p>○指定を受けた樹木等の所有者に対し、維持管理費用の一部を助成するため、固定資産税額や指定期間に応じた奨励金を年1回交付しています。これにより、所有者の負担軽減を図りながら、良好なみどりの資産を将来へと受け継ぎます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【指定基準】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">《保護地区》</td> </tr> <tr> <td>・樹木が集団で生育している土地で、その面積が300㎡以上であるもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・樹木のある神社または寺院の境内</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・その他市長が特に必要と認めたもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">《保護樹木》</td> </tr> <tr> <td>・高さが10m以上で、地上1.2mの高さにおける幹の周囲がおおむね1m以上であるもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・樹形が特に優れているもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・その他市長が特に必要と認めたもの</td> <td></td> </tr> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>【交付金額】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">《保護地区》</td> </tr> <tr> <td>3年まで</td> <td>指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の30%以内の額</td> </tr> <tr> <td>3年を超え6年まで</td> <td>指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の40%以内の額</td> </tr> <tr> <td>6年を超えるもの</td> <td>指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の50%以内の額</td> </tr> <tr> <td colspan="2">《保護樹木》</td> </tr> <tr> <td>3年まで</td> <td>樹木1本当たり 1,800円</td> </tr> <tr> <td>3年を超え6年まで</td> <td>樹木1本当たり 2,400円</td> </tr> <tr> <td>6年を超えるもの</td> <td>樹木1本当たり 3,000円</td> </tr> </table> </div> </div>				《保護地区》		・樹木が集団で生育している土地で、その面積が300㎡以上であるもの		・樹木のある神社または寺院の境内		・その他市長が特に必要と認めたもの		《保護樹木》		・高さが10m以上で、地上1.2mの高さにおける幹の周囲がおおむね1m以上であるもの		・樹形が特に優れているもの		・その他市長が特に必要と認めたもの		《保護地区》		3年まで	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の30%以内の額	3年を超え6年まで	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の40%以内の額	6年を超えるもの	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の50%以内の額	《保護樹木》		3年まで	樹木1本当たり 1,800円	3年を超え6年まで	樹木1本当たり 2,400円	6年を超えるもの	樹木1本当たり 3,000円
《保護地区》																																				
・樹木が集団で生育している土地で、その面積が300㎡以上であるもの																																				
・樹木のある神社または寺院の境内																																				
・その他市長が特に必要と認めたもの																																				
《保護樹木》																																				
・高さが10m以上で、地上1.2mの高さにおける幹の周囲がおおむね1m以上であるもの																																				
・樹形が特に優れているもの																																				
・その他市長が特に必要と認めたもの																																				
《保護地区》																																				
3年まで	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の30%以内の額																																			
3年を超え6年まで	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の40%以内の額																																			
6年を超えるもの	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の50%以内の額																																			
《保護樹木》																																				
3年まで	樹木1本当たり 1,800円																																			
3年を超え6年まで	樹木1本当たり 2,400円																																			
6年を超えるもの	樹木1本当たり 3,000円																																			
対応指針	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #f0e68c;">1-1) 健全な水循環</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #f0e68c;">1-2) 気温上昇緩和</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #f0e68c;">1-3) 温暖化緩和</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #f0e68c;">1-4) 生物多様性</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #f0e68c;">1-5) 郷土の風景</div> </div>																																			
関係者	行政、地権者	担当課	みどり公園課																																	

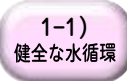
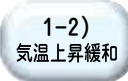
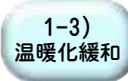
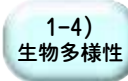
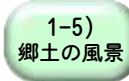
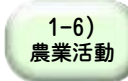
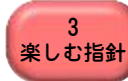
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(1) 樹林地等の担保性の向上
個別施策	③ 文化財保護制度の運用		実施状況 継続
方向性	文化財保護法に基づき、自然豊かな史跡や天然記念物などの指定文化財を適切に保護・活用することで、歴史的・文化的価値のある緑地の保全を図ります。		
内容	<p>○国指定重要文化財旧高橋家住宅、県指定史跡柵塚古墳、広沢の池や二本松などの市指定史跡、代官水、根岸台のナツグミやユズなどの市指定天然記念物といった文化財の保護と活用に努めます。</p> <p>○剪定、除草、清掃などの維持管理を継続し、地域の歴史遺産と周囲の自然環境が調和した、朝霞市らしい歴史的風致を形成する景観を維持します。</p>		
対応指針	    		
関係者	行政、地権者	担当課	文化財課

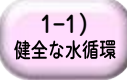
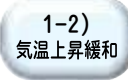
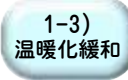
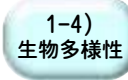
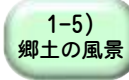
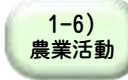
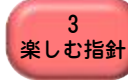
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(1) 樹林地等の担保性の向上
個別施策	④ 公有地化による樹林地等の確保		実施状況 継続
方向性	市内に残されている民有地の樹林地等については、市民や専門家の意見を取り入れ、必要に応じて市が土地を所有(公有地化)することで、大切な緑地を確実に守ります。		
内容	○緑地の価値を適切に判断した上で、市が直接取得し管理を行います。市が所有・管理を行うことで、開発行為等による緑地の消失を未然に防ぎ、豊かな自然環境を将来へ確実に継承していくことを目的とします。		
対応指針	    		
関係者	行政、地権者	担当課	みどり公園課

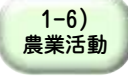
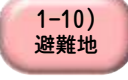
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(1) 樹林地等の担保性の向上
個別施策	⑤ 景観重要樹木の指定		実施状況 継続
方向性	景観法に基づく景観重要樹木の指定を推進し、地域のシンボルや景観上重要な樹木を保全することで、美しい都市景観の形成を推進します。		
内容	<p>○景観法に基づき、地域の良好な景観形成に特に重要な役割を果たす樹木を景観重要樹木として指定し、その保全を図る制度です。</p> <p>○指定の提案があった樹木に対し、地域の自然や歴史、文化からみて景観上の特徴があることや、道路などの公共の場所から誰もが容易に眺めることができるといった基準をもとに、朝霞市景観審議会の審議を経て指定を行います。</p> <p>○指定により、安易な損失を防ぎ持続的な保全を図るとともに、各種の補助や優遇措置、専門家による助言を受けることが可能となり、適切な維持管理を支援します。</p>		
対応指針	   		
関係者	行政、地権者	担当課	まちづくり推進課

4 みどりの取組（施策の個表）


施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(2) 良好な里山環境の維持・再生
個別施策	① 里山保全活動の推進		実施状況 継続
方向性	特別緑地保全地区などの樹林地等において、ボランティア団体と協力し、枯れた木の処理や、混み合った木を間引く間伐、草刈り、清掃活動などを継続的に行うことで、里山を美しく健康な状態に保ち、再生させていきます。		
内容	○里山は多様な生物が生息する豊かな生態系を有しており、重要な役割を担っています。この取組は、市民ボランティアの協力を得て、里山の健全な状態を保つための保全活動を行うものです。これにより、生物多様性の保全や景観の維持、さらには市民の環境意識の向上を図ります。		
対応指針	      		
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(2) 良好な里山環境の維持・再生
個別施策	② 里山管理ガイドラインの策定		実施状況 新規取組検討
方向性	里山をどう手入れするかの方針を定めて、正しい管理方法をはっきりさせることで、市民ボランティアや関係者が同じ目標に向かって効果的に活動できるよう支援し、里山の自然をより豊かにしていきます。		
内容	○里山の生態系を健全に保ち、その多面的な機能を最大限に引き出すためには、科学的根拠に基づいた管理が必要です。 ○本ガイドラインでは、間伐の時期や方法、外来種対策、生物多様性への配慮など、具体的な管理手法を提示します。これにより、管理の効率化と里山の質の向上を図り、将来にわたって持続可能な里山保全の実現を目指します。		
対応指針	      		
関係者	行政	担当課	みどり公園課
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(3) 都市農地の保全
個別施策	① 生産緑地・特定生産緑地制度の運用		実施状況 継続
方向性	生産緑地制度および特定生産緑地制度の運用により、都市部における貴重な農地を保全し、食料供給、防災、景観形成といった農地の持つ多面的な機能の保全を図ります。		
内容	○生産緑地制度は市街化区域内の農地を計画的に保全し農業の継続を目指す制度で、指定により税制の税優を受けられる一方、管理義務が生じます。 ○特定生産緑地制度は指定から30年経過後も税制の優遇をさらに10年延長できる制度であり、未指定の場合は税負担が増え農業継続が困難になる可能性があります。 ○本市では条例により指定面積の要件を500㎡以上から300㎡以上に引き下げており、より多くの農地を生産緑地に指定できるようにしています。		
対応指針	     		
関係者	行政、地権者	担当課	みどり公園課

施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(3) 都市農地の保全
個別施策	② 遊休農地の活用促進		実施状況 継続
方向性	使われなくなって荒れてしまう農地(遊休農地)の発生を防ぎ、そうなってしまった農地は再び農業利用が行われるように取り組むことで、農地全体を守ります。		
内容	○農業委員会による農地パトロールを継続的に実施し、遊休農地の発生や無断転用を未然に防ぎます。 ○所有者の高齢化や後継者不足といった課題に対し、農地の貸借を促進することで、意欲ある担い手への農地集積や新規就農者の参入を支援し、耕作放棄地の解消を目指します。 ○農地が持つ郷土景観の形成や雨水の浸透、遊水機能といった多面的な機能を重視し、地域の貴重なみどりとして、将来にわたり適正な保全と活用に努めます。		
対応指針	      		
関係者	行政、農業従事者	担当課	産業振興課・農業委員会

施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(3) 都市農地の保全
個別施策	③ 景観作物の栽培		実施状況 継続
方向性	栄養分を含んだ豊かな土が風で飛んだり雨で流れたりしないように、作物を育てていない期間にも、肥料になる植物やささいな花(景観作物)を植えることを進めます。		
内容	○市内の農家を対象に緑肥や景観作物の種子を配布し、農地の保全や遊休農地の有効活用を後押しします。 ○休耕期の裸地化を抑えることで、土壌の流出や風による砂塵の飛散を防止し、周辺の良い生活環境の維持と豊かな農地景観の形成を並行して進めます。		
対応指針	      		
関係者	行政、農業従事者	担当課	産業振興課

施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(3) 都市農地の保全
個別施策	④ 災害時の都市農地の活用		実施状況 継続
方向性	有事の際の避難空間や火災の延焼防止など、農地が持つ防災面の機能を生かすことで、地域の防災力を高め、市民の安全・安心な暮らしを支えます。		
内容	○都市農地は、災害時の一時的な避難場所や物資の集積場所、延焼防止帯として重要な役割を担うほか、雨水浸透機能により都市型水害の抑制にも有効です。これらの多面的な機能を市民に周知し、災害時における具体的な活用方法を啓発することで、農地の重要性への理解を深め保全を促進します。 ○あわせて、避難空間等として農地を提供する「防災協力農地」の登録普及に努め、生産緑地の指定時などに協定締結を促すことで、地域全体の防災体制をより強固なものにします。		
対応指針	 		
関係者	行政、地権者	担当課	危機管理室・産業振興課

4 みどりの取組（施策の個表）

1章 計画の基本的事項	2章 現状と課題	3章 みどりの将来像	4章 みどりの指針	5章 みどりの取組	6章 地域別の取組	7章 計画の実現に向けて	参考資料集
施策の柱	1-2 水辺の保全	基本施策	(1) 湧水の保全				
個別施策	① 湧水地及び周辺環境の保全			実施状況	継続		
方向性	<p>広沢の池、代官水などの湧水地を適切に管理するとともに、周辺の森林や農地を保全して湧水の元となる地下水を豊かにし、湧水環境を守ります。</p>						
内容	<p>○かつて灌漑用水に利用された広沢の池や、江戸時代から地域で活用されてきた代官水、豊富な水量を誇る岡特別緑地保全地区内の湧水地をはじめ、市内には20か所以上の湧水地が確認されています。</p> <p>○これらは地域の貴重な自然資源であり、生態系の維持や景観形成に重要な役割を果たすため、普及啓発や土地所有者の理解を通じて保全に努めます。</p> <p>○また、湧水の源となる周辺の森林や農地の保全に加え、雨水の地下浸透を促す浸透枿や透水性舗装の設置を広域的に進めることで、湧水の水量と水質の維持を目指します。</p>						
対応指針							
関係者	行政、地権者、市民		担当課	みどり公園課・文化財課・環境推進課			
施策の柱	1-2 水辺の保全	基本施策	(1) 湧水の保全				
個別施策	② 雨水貯留浸透の推進			実施状況	継続		
方向性	<p>朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する条例に基づき、雨水を貯めたり地面にしみ込ませたりする施設を整備して浸水被害を減らし、自然な水循環を取り戻します。</p>						
内容	<p>○都市化に伴う浸透面積の減少や気候変動による集中豪雨の増加に対し、河川や下水道への負担軽減と水害の防止を図るため、各施設への雨水流出抑制施設の設置が重要となっています。本市では朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する条例に基づき、500㎡以上の開発行為における雨水流出抑制施設の設置を推進しています。また、500㎡未満については、浸透ますの設置をお願いしています。</p> <p>○朝霞市創エネ・省エネ設備設置費補助制度は、温室効果ガスの排出抑制や雨水の有効活用、河川への流出抑制を目的として、環境に配慮した創エネ・省エネ設備機器を設置した方に対し、予算の範囲内で設置費の一部を補助するものです。</p> <p>○水循環シミュレーションの結果を踏まえ、土地条件における雨水貯留浸透能力の適正配置の方針を検討し、健全な水循環を誘導するための雨水貯留浸透施設等の設置基準、緑化基準を改定し運用します。</p> <p>○公共施設の整備・再整備では、地域の健全な水循環を保全・再生させるため、雨水浸透や雨水の一時貯留等の取組を推進します。</p>						
対応指針							
関係者	行政、開発事業者、市民		担当課	環境推進課・下水道施設課・開発建築課			

施策の柱	1-2 水辺の保全	基本施策	(2) 河川の保全
個別施策	① 荒川近郊緑地保全区域における河川環境の保全		実施状況 継続
方向性	荒川クリーンエイド等の活動を通じて、荒川近郊緑地保全区域の豊かな自然環境を守ります。		
内容	○荒川は重要な水辺空間であり、広域的な生態系ネットワークの核を担っています。市民、行政、関係機関が連携した荒川クリーンエイド等を通じ、河川の美化と水質保全に努めます。豊かな自然環境と水辺のみどりを保護し、市民が親しめる安全で良好な空間を維持して次世代へ継承することを目指します。		
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和 1-4) 生物多様性 1-5) 郷土の風景
関係者	行政、市民	担当課	環境推進課

施策の柱	1-2 水辺の保全	基本施策	(2) 河川の保全
個別施策	② 黒目川・新河岸川・越戸川的环境保全		実施状況 継続
方向性	黒目川、新河岸川、越戸川の自然を守る活動を継続し、生き物に配慮した川づくりや、外来種対策、市民参加による清掃活動などを通じて、水辺の環境と景観をより良くします。		
内容	○黒目川、新河岸川、越戸川は、散策や健康増進の場として市民に広く親しまれており、水とみどりのネットワーク形成における重要な要素です。これらの河川において、生態系に配慮した管理や、県・関係機関と連携した野生動植物の保護、外来種対策、環境学習を推進します。 ○朝霞市景観計画に基づき、河川の自然環境や周辺の斜面林、農地、桜並木が調和した景観の保全に努めます。 ○市民参加による清掃活動を通じて河川の美化と憩いの空間づくりを図り、活動を通じた地域の連帯感を育みます。		
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和 1-4) 生物多様性 1-5) 郷土の風景
関係者	行政、市民	担当課	道路整備課・地域づくり支援課・環境推進課・まちづくり推進課

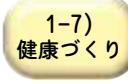
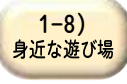
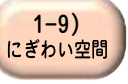
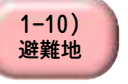

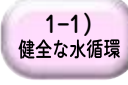
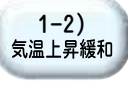
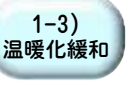
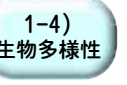
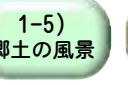
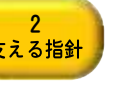
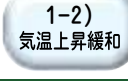
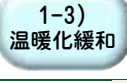
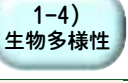
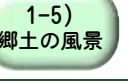
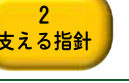
施策の柱	1-2 水辺の保全	基本施策	(2) 河川の保全
個別施策	③ 朝霞調節池内の湿地環境の保全		実施状況 継続
方向性	朝霞調節池内の湿地においては、国や県、市民団体と協力して希少な植物の保護活動を支援し、多様な湿地の生き物が暮らせる環境を守るとともに、自然観察の場としての活用に向けて検討を進めます。		
内容	○朝霞調節池は、多くの生物が生息する貴重な湿地環境を有しています。特に絶滅危惧種であるトダスゲの保全活動は、地域の生物多様性を維持する上で極めて重要です。市民団体との協働により湿地の生態系を保護するとともに、将来的には自然観察会などの開催を通じて、市民が湿地の重要性を学び、豊かな自然に親しむ場としての活用を目指します。		
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和 1-4) 生物多様性 1-5) 郷土の風景
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課

4 みどりの取組（施策の個表）

1章 計画の基本的事項	2章 現状と課題	3章 みどりの将来像	4章 みどりの指針	5章 みどりの取組	6章 地域別の取組	7章 計画の実現に向けて	参考資料集
施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(1) 公園の整備推進				
個別施策	① 身近な公園の適正配置		実施状況	継続			
方向性	<p>身近な公園が不足する地域をなくすため、住区基幹公園の整備を進めます。 また、老朽化した公園のリニューアルや再編を継続的に検討し、地域住民のニーズや利用状況に応じた機能充実を図り、公園の魅力を高めて利用を促進します。</p>						
内容	<p>○市民が日常的に利用する身近な公園は、健康増進やコミュニティ形成において重要な役割を担っています。特に公園が不足している地域では、既存の土地を有効に活用し、効率的な公園整備を推進します。</p> <p>○小規模な公園に特色を持たせ、利用者の目的に合わせて公園を選べる環境を整えるため、小学校区を単位として地域住民の意見を反映させながら、遊具や広場、生物多様性に配慮したみどり豊かな空間など、個々の公園が担う機能を具体化し、特色づくりを進めます。</p> <p>○マンション開発等に伴い設置・提供される公園や児童遊園地についても、地域住民がより利用しやすいものとなるよう検討します。</p> <p>○老朽化した公園については、現在の利用ニーズに対応させるため、公園全体の機能を見直し、計画的な再整備を検討します。あわせて、近隣の複数の公園を一つの群として捉え、一体的な機能の再配置を行うことで、限られた空間資源を最大限に活用し、多様なニーズに応えられる公園へと再編を検討します。</p>						
対応指針							
関係者	行政、地権者、開発事業者		担当課	みどり公園課			
施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(1) 公園の整備推進				
個別施策	② 基地跡地公園の整備推進		実施状況	継続			
方向性	<p>朝霞市基地跡地利用計画の着実な実行を図り、整備に際しては朝霞市基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画〔改訂版〕に基づいて、これからの朝霞の憩いと交流の拠点となる公園づくりを目指します。</p>						
内容	<p>○平成 24(2012)年に開設した基地跡地暫定利用広場「朝霞の森」は、使いながらつくる、つくりながら考える広場として、市民参加により利用ルールを構築し、市民中心の管理運営に継続して取り組みます。</p> <p>○また、平成 27(2015)年 12 月に改定された朝霞市基地跡地利用計画に基づき、将来の朝霞のための憩いと交流の拠点の形成を目指し、基地跡地に残された緑地について、隣接する既存公園と連携したみどりの拠点ゾーンとしての整備を推進します。</p> <p>○あわせて、同計画を基本に据えながら、基地跡地公園の実現に向けた様々な事業手法の検討を行います。</p>						
対応指針							
関係者	行政、市民		担当課	みどり公園課・政策企画課			

施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(1) 公園の整備推進
個別施策	③ 内間木公園の整備推進		実施状況 継続
方向性	内間木公園拡張整備基本構想に基づき、地域の特性を生かした公園づくりや防災機能の整備を行い、市民の憩いやレクリエーションの場としての魅力を高めます。		
内容	<p>○内間木地域は公園が少なく、遊具や広場など安全に遊べる空間が不足しています。市民意見を反映し、遊具・広場を整備し植栽の充実を図り、多世代が親しめる公園づくりを進めます。</p> <p>○公園の再整備にあたっては、Park-PFI の導入など、民間の資金やノウハウを活用した効果的な整備手法の検討を行います。</p>		
対応指針			
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課
施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(2) 公園機能の充実
個別施策	① 防災機能の充実		実施状況 継続
方向性	朝霞市地域防災計画に基づきながら、公園への防災施設の設置を検討し、災害時に避難場所や物資集積拠点として機能する公園づくりを進めることで、都市の防災力を強化します。		
内容	○朝霞市地域防災計画に基づき、公園の防災機能を強化します。避難場所としての位置や規模を考慮し、防災倉庫やかまどベンチ、非常用トイレ等の設置を推進します。また、公園の新設時も地域特性に応じた機能を確保し、災害時の避難や活動拠点としての役割を強化します。		
対応指針			
関係者	行政	担当課	みどり公園課・危機管理室
施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(2) 公園機能の充実
個別施策	② バリアフリー・インクルーシブデザインの推進		実施状況 継続
方向性	バリアフリー対応の公園施設を積極的に整備し、新たに整備する公園やリニューアルする公園にはバリアフリーやユニバーサルデザインを導入して、誰もが安全で快適に利用できる環境を整えます。		
内容	<p>○年齢、性別、障害の有無を問わず、誰もが公園を自由に利用できる環境を整備します。段差の解消や手すりの設置、多機能トイレの導入、インクルーシブ遊具の設置等を通じて、公園のアクセシビリティと利便性を高め、多様な方々に開かれた交流の場となることを目指します。</p> <p>○また、公園の整備や再整備の際には、設計段階から地域住民をはじめ、子どもから高齢者、障害のある方など様々な立場の方々の意見やアイデアを取り入れ、誰もが利用しやすく遊びやすい公園づくりを推進します。</p>		
対応指針			
関係者	行政	担当課	みどり公園課

4 みどりの取組（施策の個表）

1章 計画の基本的事項	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(3) 公園の維持管理の充実
2章 現状と課題	個別施策	① 施設の維持管理の充実	
3章 みどりの将来像	方向性	公園施設の安全点検を徹底し、朝霞市公園施設長寿命化計画に基づきながら計画的な修繕・更新を行い、施設の安全性を確保して、長期的な利用を可能にします。	
4章 みどりの指針	内容	<p>○公園の遊具や施設は経年劣化で安全性が低下する恐れがあるため、定期点検と計画的な修繕・更新により事故を未然に防ぎ、市民が安心して利用できる環境を維持します。適切な修繕を通じて施設の長寿命化を図ることで、将来的な維持管理コストの最適化を推進します。</p> <p>○市民の多様なニーズへの円滑な対応とサービス向上のため、都市公園の一部に指定管理者制度を導入しています。今後も制度の適切な運用により、サービス向上に努めます。</p>	
5章 みどりの取組	対応指針	    	
6章 地域別の取組	関係者	行政	担当課 みどり公園課
7章 計画の実現に向けて	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(3) 公園の維持管理の充実
参考資料集	個別施策	② 維持管理性と美観を保つ公園等植栽管理指針の策定	
	方向性	公園などにおける植栽管理指針を策定し、管理の手間を減らすことと美しさを保つことを両立させて質の高い緑地空間をつくり、みどりの健康を長く保ちます。	
	内容	<p>○植栽は公園など公共施設の景観を形成する重要な要素ですが、適切な管理が行われなければその魅力は損なわれてしまいます。</p> <p>○維持管理性と美観を両立させるため、樹種の選定や剪定方法、病害虫対策、水やりなどの具体的な基準を定めた植栽管理指針を策定します。これにより、管理作業の標準化を図り、コストを抑えつつ、年間を通じて美しい緑地空間を維持することを目指します。</p>	
	対応指針	     	
	関係者	行政	担当課 みどり公園課
	1-4 道路・河川のみどりの育成	基本施策	(1) 街路樹・並木の整備と管理
	個別施策	① 持続的な植栽のあり方に関する検討	
	方向性	持続的な植栽のあり方について検討し、街路樹や並木を健全に育て、長期的に効率的な管理が行えるようにします。	
	内容	<p>○令和2(2020)年にオープンしたシンボルロードは、みどり豊かな憩いの場として親しまれる一方、樹木の老木化や過密化への対応が課題となっています。これまで専門家や市民参加によるワークショップ、樹木医を交えた勉強会を通じ、次世代につなげる新しい里山(朝霞スタイル)という理念のもと、管理の方向性を検討してきました。</p> <p>○今後はこの理念を具現化するため、目指す姿やゾーンごとの目標植生、具体的な作業計画や役割分担、さらに見直しの体制までを網羅した緑地管理計画を策定し、持続可能な管理の指針とします。</p>	
	対応指針	    	
	関係者	行政、市民	担当課 みどり公園課

施策の柱	1-4 道路・河川のみどりの育成	基本施策	(1) 街路樹・並木の整備と管理
個別施策	② 街路樹の適正な維持管理		実施状況 継続
方向性	街路樹管理計画の策定を検討するとともに、街路樹の適正な維持管理を進め、安全で美しい街路景観を育てます。		
内容	<p>○街路樹は、良好な都市環境の形成に大きく貢献する一方で、適切な管理がなければ、通行の妨げや倒木の危険性、落葉による苦情などが発生する可能性があります。</p> <p>○計画的な剪定や病害虫対策により、樹木の健全な育成と安全で快適な道路空間の確保に努めます。</p> <p>○街路樹の適正な整備と維持管理を行うため、街路樹の配置や老朽度の調査を実施するとともに、街路樹管理に関する計画の策定について検討します。</p> <p>○また、事業中の都市計画道路における緑化や、地域住民との協働による植樹帯の維持管理を推進するとともに、国道や県道の管理者へも植栽整備を働きかけ、地域全体で美しい街路景観づくりを推進します。</p>		
対応指針			
関係者	行政	担当課	道路整備課
施策の柱	1-4 道路・河川のみどりの育成	基本施策	(2) ウォーカブルな空間形成
個別施策	① 河川沿いの散策路・親水広場の整備・管理		実施状況 継続
方向性	黒目川・新河岸川沿いを中心に、散策路や親水広場の整備・管理を継続し、水辺に親しみ、憩い、健康増進を図れる空間をつくります。		
内容	<p>○朝霞市景観計画に基づき、黒目川や新河岸川の自然環境、周辺の斜面林、農地、桜並木が一体となった豊かな景観を保全します。</p> <p>○これらの水辺空間において、ベンチや休憩スペースを適正に配置することで、ウォーキングやジョギング、自然観察といった多様な活動を促進し、市民が日常の中で健康的なライフスタイルを楽しめる、ウォーカブルなまちづくりを推進します。</p>		
対応指針			
関係者	行政、企業	担当課	まちづくり推進課・みどり公園課・道路整備課

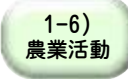
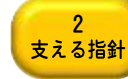
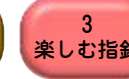
4 みどりの取組（施策の個表）

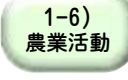
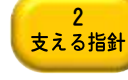
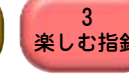
施策の柱	1-4 道路・河川のみどりの育成	基本施策	(2) ウォーカブルな空間形成
個別施策	② 歩道のネットワーク化と管理		実施状況 継続
方向性	歩道のネットワーク化と適切な管理を継続し、安全かつ快適に移動できる歩行空間を確保します。		
内容	<p>○歩道は日常生活を支える重要施設です。段差解消や舗装改善、幅員確保、街路樹との調和により、高齢者や障害者など誰もが安心して利用できる歩行空間を整備します。</p> <p>○歩行環境のネットワーク化を継続的に推進することで、公共交通機関へのアクセス向上やまちなか散策の活性化を図り、安全で快適に移動できる都市の回遊性の向上に貢献します。</p>		
対応指針	   		
関係者	行政	担当課	道路整備課
施策の柱	1-4 道路・河川のみどりの育成	基本施策	(2) ウォーカブルな空間形成
個別施策	③ 休息や健康づくりの場の整備		実施状況 継続
方向性	まちなかベンチ、ポケットパーク、健康遊具の設置などを通じて、市民が気軽に休息し、健康づくりに取り組むことができる場を整備し、都市の快適性を高め、健康増進を図ります。		
内容	<p>○ウォーカブル推進都市として、駅前や商業施設周辺、公園の入口等にベンチやポケットパークを整備し、誰もが日常的に休息できる快適な都市空間を創出します。</p> <p>○あわせて、市内の散策路や散歩コースとの連携を考慮し、公園等へ健康遊具を計画的に配置することで、高齢者をはじめとした市民が気軽に運動に取り組める機会を提供します。</p> <p>○これらの整備にあたっては、市民や事業者からの寄附活用なども含めた多様な手法を検討し、官民が連携して市民の健康増進を支える環境づくりを推進します。</p>		
対応指針	  		
関係者	行政	担当課	まちづくり推進課・みどり公園課・道路整備課
施策の柱	1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	基本施策	(1) 公共施設のみどりの整備・管理
個別施策	① 公共施設の緑化と管理		実施状況 継続
方向性	市役所、保育園、公民館、学校など、様々な公共施設の緑化を進め、適切な管理を行うことで、美しい景観づくりや、夏の暑さ対策などを進めます。		
内容	<p>○公共施設の敷地内や壁面、屋上など、多様な場所での緑化を推進し、ヒートアイランド現象の緩和や省エネルギー効果、景観の向上を図ります。緑化された空間は、市民の憩いの場や環境教育の場としても活用し、適切な維持管理によりみどりの健全な成長を促します。</p> <p>○花とみどりにあふれたうるおいあるまちづくりに向けて、駅前広場や道路、公共施設等への花壇整備を進めるとともに、町内会やボランティア団体等と協力したプランターの維持管理や道路清掃などの市民協働の活動を推進し、地域全体で魅力的な景観の維持に努めます。</p>		
対応指針	      		
関係者	行政、市民	担当課	各公共施設所管課

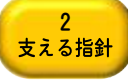
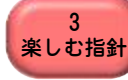
施策の柱	1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	基本施策	(1) 公共施設のみどりの整備・管理
個別施策	② 公共施設の植栽管理指針の策定		実施状況 新規取組検討
方向性	公園の植栽管理指針を策定する際には、公園以外の公共施設での管理についてもあわせて検討して、公共施設全体で質の高い緑地空間をつくり、みどりの健康を長く保ちます。		
内容	○公共施設の植栽は、地域の景観づくりを先導する重要な役割を担っています。 ○公園の植栽管理指針を策定する際、他の公共施設と共通化し、公共空間全体で質の高い緑地空間を創出します。また、維持管理を効率化し、長期的な健全性を確保します。		
対応指針	      		
関係者	行政	担当課	みどり公園課
施策の柱	1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	基本施策	(2) 民有地のみどりの整備促進
個別施策	① 緑化支援制度の運用		実施状況 継続
方向性	生け垣をつくる際の補助金などの制度を適切に運用し、民有地の緑化を後押しして、まち全体のみどりの量を増やし、住みよい環境をつくります。また、みどりが持つ多様な機能を発揮させるための雨庭設置等、新たな支援策の検討を進めます。		
内容	○生け垣は、通風改善、美観向上、防火、耐震性といった多面的な効果を持つ緑化手法です。 ○生け垣等設置奨励補助金などの緑化支援制度を運用することで、民有地における緑化を促進し、都市全体の緑被率向上と良好な住環境の形成を図ります。 ○また、既存の生け垣整備に加え、ヒートアイランド現象の緩和効果が期待できる高木の植栽や、雨水貯留浸透機能を有する雨庭の設置など、みどりの持つ多様な機能を最大限に発揮させるための新たな支援策の検討を進め、より質の高い住環境の創出を図ります。		
対応指針	      		
関係者	行政、市民、企業	担当課	みどり公園課
施策の柱	1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	基本施策	(2) 民有地のみどりの整備促進
個別施策	② まちづくりの制度を活用したみどりの確保		実施状況 継続
方向性	まちづくりの制度を積極的に活用し、民間による開発とあわせて緑地が確保されるよう促し、計画的に都市の緑化を進めます。		
内容	○みどり豊かな環境を創出するため、市独自の「あさか景観づくり協定」や地区計画制度などの活用を通じ、地域住民等による主体的な景観づくりのルール形成を促進します。あわせて、「朝霞市開発事業等に関する手続き及び基準に関する条例」に基づき、大規模開発やマンション建設時における緑化基準の遵守を指導します。 ○これにより、開発に伴う緑地の減少を抑制し、新たな緑地空間の創出を促すことで、民間開発と連携した計画的な都市緑化を推進し、都市全体の緑化水準の向上を図ります。		
対応指針	       		
関係者	行政、市民、開発事業者	担当課	みどり公園課・まちづくり推進課・開発建築課

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(1) みどりの担い手の育成
個別施策	① プレーパークの推進		実施状況 継続
方向性	プレーパークの活動を広げて、こどもの居場所づくりを進め、こどもたちが自然の中で自由に遊び、育つ場を充実させます。		
内容	<p>○プレーパークは、こどもたちが自らの責任で自由に遊ぶことを尊重する場所であり、自然素材や廃材の活用を通じて創造性を育む遊びを奨励しています。</p> <p>○市は、運営団体への支援や活動場所の提供を行うことで、こどもたちの健全な成長をサポートするとともに、地域の子育て支援や自然体験の機会を創出します。</p> <p>○拠点となる「朝霞の森」へのアクセスが難しい地域にも遊び場を届けるため、移動式プレーパーク「プレーパークキャラバン」を実施し、市内全域でこどもの居場所づくりを促進します。</p>		
対応指針	  		
関係者	行政	担当課	みどり公園課・こども未来課
施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(1) みどりの担い手の育成
個別施策	② みどりの講習会等の実施		実施状況 継続
方向性	専門家を招いた勉強会などを開催し、みどりへの関心や知識、技術を高めてみどりの担い手を育てます。		
内容	○専門家による講習会は、市民がみどりに関する知識や最新の情報を学ぶ貴重な機会になります。こうした学びの場を通じて、市民一人ひとりが緑化活動に高い関心を持ち、自ら積極的に取り組めるよう支援することで、地域全体のみどりの質の向上を促進します。		
対応指針	 		
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課
施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(1) みどりの担い手の育成
個別施策	③ 環境学習の実施		実施状況 継続
方向性	学校での環境教育やこどもエコクラブの活動などを支援し、こどもたちが環境問題への理解を深め、環境保全への意識を育てる機会をつくります。		
内容	<p>○学校の授業を通じた地球温暖化や生物多様性、ごみ問題などの多様な環境テーマに関する学びを推進します。</p> <p>○また、環境講座の開催や環境美化ポスターの募集、こどもエコクラブの活動支援などを通じて、身近な環境教育・環境学習の機会を充実させます。こうした取組により、次世代を担うこどもたちが環境問題への理解を深め、日常生活の中で自主的な環境保全活動に取り組めるよう促進します。</p>		
対応指針	 		
関係者	行政、市民	担当課	教育指導課・環境推進課・資源リサイクル課

施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(1) みどりの担い手の育成
個別施策	④ 教育分野における農業体験の促進		実施状況 継続
方向性	学校教育の中で農業体験の機会を設け、子どもたちが食や農業への理解を深め、自然との触れ合いを通じて豊かな心を育む機会をつくります。		
内容	<p>○学校の授業や課外活動に農業体験を取り入れることで、作物の生長を学び、食のありがたみや命の大切さを実感する機会を創出します。実際に土に触れ、自然の中で活動することは、子どもたちの五感を刺激し、豊かな感性や自然への畏敬の念を育むことにつながります。</p> <p>○こうした次世代の食育と環境教育を一体的に推進することで、子どもたちが身近な自然や食への理解を深め、心身ともに健やかに成長することを目指します。</p>		
対応指針	  		
関係者	行政、農業従事者	担当課	教育指導課

施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(1) みどりの担い手の育成
個別施策	⑤ 食育の推進		実施状況 継続
方向性	食育を進め、市民一人ひとりが食に関する正しい知識と選ぶ力を身につけ、健康的な食生活を送れるようにするとともに、都市農業の大切さを伝えます。		
内容	<p>○食育は、健康な心身を育む上で不可欠な取組です。本市では、学校給食における地場産食材の積極的な活用に加え、地元農産物を用いた料理教室や農業体験と連携したプログラムを通じ、食の循環や都市農業が果たす役割への理解を深めます。</p> <p>○こうした活動を通じて、市民が食への意識を高め、地域に根ざした健全な食生活を自発的に実践することを促進します。</p> <p>○また、地産地消を推進することで、農の恵みを感じられる豊かな食文化の継承と、市民の健康的な暮らしの実現を目指します。</p>		
対応指針	  		
関係者	行政、農業従事者	担当課	健康づくり課・学校給食課・教育指導課

施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(2) 担い手の連携の拡充
個別施策	① 担い手のマッチング		実施状況 新規取組検討
方向性	手入れが行き届かないみどりの空間と、保全活動を行う市民団体を結びつけ、緑地管理を効率的に行うとともに、市民活動を活発にします。		
内容	<p>○みどりの空間を所有しているものの管理に苦慮する個人や団体と、保全活動を希望するボランティア団体をつなぐマッチングの仕組みを構築します。</p> <p>○市民が主体となって活動できる場を広げることで、みどりを通じたコミュニティの形成や市民活動の活性化を促進します。地域全体でみどりを守り育む体制を整えることで、管理の効率化を図るとともに、持続可能な緑地管理と良好な景観の維持を目指します。</p>		
対応指針	 		
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(2) 担い手の連携の拡充
個別施策	② ボランティア活動団体の交流の促進		実施状況 継続
方向性	生物多様性市民懇談会や緑地保全の勉強会などを開催し、ボランティア団体同士の交流を深め、情報共有と連携によって活動の質を高めるとともに、活動が継続的に行われるように支援します。		
内容	<p>○市内で活動する様々な緑化・環境保全団体が、互いの活動内容や課題を共有し連携を深める場を提供します。団体間の情報共有やネットワーク化を図ることで、共通の課題に対する効果的な解決策を共に検討できる体制を構築します。</p> <p>○こうした連携の強化により、各団体のスキルアップやモチベーションの維持を支援し、地域全体で質の高い保全活動が持続的に行われることを促進します。市民団体と行政が一体となった強固な推進体制を構築し、みどり豊かな地域社会の実現を目指します。</p>		
対応指針	 		
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課
施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(2) 担い手の連携の拡充
個別施策	③ 民間企業等の参画の促進		実施状況 新規取組検討
方向性	公募設置管理制度 (Park-PFI)などを導入して、民間事業者の参加を促し、様々な人たちと協力して、みどりのまちづくりを進めます。		
内容	<p>○民間資金等を活用した Park-PFI を導入し、収益施設を伴う魅力的な公園づくりを促進します。市の財政負担を軽減し、にぎわい創出と自立的な運営の両立を図ります。</p> <p>○企業の CSR 活動やネーミングライツ、カーボンオフセット等による参画を検討し、専門技術を持つ企業との連携による質の高い緑地管理や環境教育を推進します。行政と民間事業者がパートナーとして連携を深め、持続可能なみどりのまちづくりを目指します。</p>		
対応指針	 		
関係者	行政、企業	担当課	みどり公園課
施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(2) 担い手の連携の拡充
個別施策	④ 農の担い手の育成		実施状況 継続
方向性	農業者団体や後継者組織の活動を積極的に支援し、これからの農業の担い手を育てます。		
内容	<p>○都市化が進む中で持続可能な農業を推進するため、多様な担い手の育成・確保を進めます。市民に身近な庭先販売や販売拠点である直売所の販売力を高めるため、農産物直売団体への支援を行うとともに、出荷組合の活動を支えることで生産者の経営安定化を促進します。</p> <p>○また、将来の地域農業を担う朝霞市農業青年クラブ等の農業後継者組織を支援し、組織の強化を通じた次世代への確実な技術継承と安定した後継者の確保を目指します。こうした多角的な取組により、地域農業の振興を図ります。</p>		
対応指針			
関係者	行政、農業従事者	担当課	産業振興課